



製品要覧 2025 目次

- ・ 薬剤名をクリックすると、その項目・薬剤の解説ページにジャンプします。
- ・ 薬剤ページのページ番号をクリックすると目次ページにジャンプします。

- (1) エムシー緑化製品要覧について
- (2) 記載事項の見方
- (3) 法律に基づく農薬の情報提供について
- (4) 農薬の使用にあたって

－家庭園芸用薬品－

殺虫剤（農薬）

アプロード[®]フロアブル
カルホス[®] 粉剤
コロマイト[®] 乳剤
スターガード[®] 粒剤
トレボン[®] 乳剤
トレボン[®] 粉剤DL
MIC[®] ナメクジ退治
ネキリエース[®] K

殺菌剤（農薬）

ネビジン[®] 粉剤

殺虫殺菌剤（農薬）

サンヨール[®]
サンヨール[®] 液剤AL
サンヨール[®]・トレボン[®] スプレー

除草剤（農薬）

クサクリア[®]
クサレンジャー[®]
フレピオン[®] シャワー

その他製品

ムカデ退治 粉剤

－緑地管理用薬品－

(業務用につき一般向け小売はしておりません)

殺虫剤(農薬)

ウッドスター[®]
サニーフィールド[®] MC
テラ[®]フロアブル
トレボン[®] 乳剤
マツガード[®]
マツガードクイック[®]
マツガードフラッシュ[®]

除草剤(農薬)

MIC[®] エンドタールK液剤
クサクリーン[®] 液剤
グラッチェ[®] 顆粒水和剤
クロスリード[®] 液剤
フレノック[®] 液剤 30
フレノック[®] 粒剤 10
フレピオン[®] L液剤

殺菌剤(農薬)

ガイア[®]顆粒水和剤
サンブレイク[®]液剤
(肥料入り農薬)
タチガレン[®]液剤
パッチコロ[®]水和剤

展着剤(農薬)

グラミン[®] S

肥料

サンブレイク[®]液剤
(農薬入り複合肥料)

－その他製品－

薬剤注入器

ウッドスター[®] 薬剤注入器セット

ハチ駆除剤

ハチダウン[®]

ハチ駆除用スプレー竿

ハチロー[®] FH

エムシー緑化製品要覧について

この要覧は、(株)エムシー緑化が取扱っている製品について、その概要を記載しています。記載内容は2025年1月1日現在のものを基準としています。農薬登録を含む記載内容が変更になっている場合もありますので、購入・使用される際には必ずラベルをよく読み確認してください。農薬の場合は農薬取締法及び関連法令を遵守し、適切な取扱いをしてください。なお、品質保証期間を示す最終有効年月は製品に記載されています。

また、弊社ホームページでも製品情報を記載しておりますので、ご利用ください。弊社ホームページのアドレスは下記の通りです。

<https://www.mc-ryokka.com>

●記載事項の見方

タイトル部分は以下に準じて記載しています。

農林水産省登録第〇〇〇〇号	商品名
殺菌剤 第 18210 号	ネビジン® 粉剤 種類名：フルスルファミド粉剤
特長 ●幅広いアブラナ科作物の根こぶ病に安定した効果を示します。 ●残効性に優れ長期間効果が持続します。 ●毎年の連用により、効果がより一層安定します。	
【有効成分】フルスルファミド0.3%	
【性 状】淡黄色粉末 45 μ m 以下	
【毒 性】普通物* 【危険物】－	
【有効年限・包装】5 年・1kg × 20	
※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。	
ネビジンは三井化学アグロ(株)の登録商標です。	
【毒 性】：毒劇物分類 毒物及び劇物取締法に定める分類 毒物及び劇物指定令による 毒 物：医薬用外毒物 劇 物：医薬用外劇物 普通物：「毒物及び劇物取締法」に基づく、 特定毒物、毒物、劇物の指定を受 けない物質を示す	【危険物】：危険物分類 消防法に定める危険物 例－：該当せず 例 2石・Ⅲ：第4類第2石油類・危険物等級Ⅲ
PRTR:PRTR法 1種：第1種指定化学物質の略	

●使用時期・使用回数

農薬残留基準、農薬登録保留基準および使用適期に基づき使用時期、使用回数が定められています。

●法律に基づく農薬の情報提供について

「毒物及び劇物取締法」（以下、毒劇法）に基づき、毒物劇物営業者が毒物及び劇物を販売又は授与する際に、譲渡人に対し「性状及び取扱いに関する情報」（以下、SDS）を提供する事が義務付けられています。また、「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」（以下、化管法）に基づき、化管法対象化合物を含有する製品を他の事業者の販売又は譲渡する際には、SDSを提供する事が義務付けられています。

なお、紙面の都合もあり、「取扱い及び保管上の注意」、「漏出時の措置」、「廃棄上の注意」、「輸送上の注意」及び「火災時の措置」につきましては、本書の「農薬の使用にあたって」を参照願います。

農薬の使用にあたって

農薬は正しく使いましょう

－10のチェックポイント－

1. 農薬はラベルや説明書をよく読み、正しく使いましょう。
(記載以外には使用しない)
2. 体調がすぐれないときや、妊娠中の人は散布作業を避けましょう。
3. 防除機具は故障や不備のないよう事前に点検・整備しましょう。
4. 農薬を使うときは、マスク・手袋など防護具を着用しましょう。
5. 散布は風の少ない、朝夕の涼しいときに行ないましょう。
6. 風向きや作物の高さなどを考えて、農薬が体にかからないよう散布しましょう。
7. 環境保全のため、農薬が圃場の外に飛散・流出しないよう注意を払いましょう。
8. 農薬の空容器は圃場などに放置せず、正しく処分しましょう。
9. 農薬は食品と区別し、カギをかけて保管しましょう。
(小児の手の届く所には置かない)
10. 作業後は、うがい・入浴をして、衣服を着替えましょう。

●安全使用のための知識

農薬の表示事項

農薬の容器に添付されるラベルには、その農薬を効果的に、かつ安全に使うための必要不可欠な事項が表示されている。

登録された農薬であることを示す登録番号をはじめ、成分、毒物劇物取締法に係る毒性の表示、消防法に係る危険物の表示、適用農作物名又は範囲、適用病害虫・雑草の名前、使用量、希釈倍数、散布液量、使用時期、総使用回数、使用方法、使用上の注意、最終有効年月など、関連する法律に基づく表示が義務付けられている。新しい農薬を使うときはもちろん、使い慣れた農薬でも、表示事項に変更がある場合があるので、使用前に必ずラベルを読む習慣をつける。特に注意しなければならないことには、注意喚起マークが表示されている。

注意喚起マーク(絵表示)具体例

注意・警告マーク
注意事項のタイトルの前に表示

【例】



効果・薬害等の注意



安全使用上の注意

行為の強制マーク（必ずすること）			行為の禁止マーク（してはいけないこと）		
マークの意味	マークと注意事項		マークの意味	マークと注意事項	
マスク着用		散布時は、農薬用マスク（保護マスク）を着用する。	河川流出禁止（魚介類注意）		魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響あり。河川、湖沼、海域等に飛散・流入しないよう注意。養殖池周辺での使用はさける。
保護メガネ着用		散布液調製時は、保護メガネを着用し、薬液が眼に入らぬよう注意する。	桑園付近使用禁止（カイコ注意）		蚕に長期間毒性があるので、付近に桑園がある所では使用しない。
不浸透性手袋着用		散布時は、不浸透性手袋を着用する。	かぶれる人使用禁止（カブレ注意）		かぶれやすい人は作業しない。施用した作物などに触れない。
不浸透性防除衣着用		散布時は、不浸透性保護衣を着用する。	ハチ巣箱への散布禁止（ミツバチ注意）		ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
厳重保管		必ず農薬保管庫（箱）に入れ、カギをかけて保管する。	施設内使用禁止		ハウス内や噴霧のこもりやすい場所では使わない。
その他		その他、行為の強制を喚起する事項の場合	飲用禁止		飲めませんまたは飲用禁止。 * 飲料用包装と酷似しているものにのみ記載する。

※この表示方法は順次製品のラベルに反映されます。

使用上の諸注意

●万一身体に異常を感じた時は医師の診断を受ける

農薬散布をした後、身体に異常を感じたら、直ちに使用した農薬の容器を持参して、医師の診断を受ける。中毒については、中毒110番（日本中毒情報センター）が情報を伝えてくれるので、医師から問い合わせてもらおうと良い。

中毒110番（日本中毒情報センター）

中毒110番	一般市民専用電話 （無料）	医療機関専用電話 （1件につき2,000円）
大 阪 （365日、24時間対応）	072-727-2499	072-726-9923
つくば （365日、9～21時対応）	029-852-9999	029-851-9999

●立て札、見張り

子供や通行人が近寄るおそれのある公園、街路樹等の防除では、散布作業中や、薬液が乾くまでの間は、見張り役を置いたり、立て札・立て看板等の表示を行い、散布区域内に関係者以外の者が入らないよう最大限の配慮を行う必要がある。

また、住宅地付近では、窓、洗濯物の有無を確認し、窓閉め、洗濯物の取り込みを依頼する。

農薬相談室

（略称「農薬でんわ相談」）

公益社団法人 緑の安全推進協会内

電話番号 03-5209-2512

開業時間 午前9時から午後5時まで（土、日、祝祭日及び年末年始は休み）
開業時間以外は留守番電話で伺います。

住 所 〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル 5 階

ホームページ <http://www.midori-kyokai.com>

農薬について知りたいこと、困っていることなど、何でもご相談ください。
正確な、新しい情報をもとに、わかりやすく親切をモットーにお答えします。
（個別の農薬については、「製造または販売会社」にお問い合わせください）

登録番号 第 19923 号

アプロード®フロアブル

- 幼虫の脱皮を阻害し、齢末期～脱皮時に死亡させる昆虫成長制御剤です。
- 特長： ●多くの天敵に対して影響が少なく、天敵の保護活用場面にも適した薬剤です。
- フロアブル製剤のため薬剤の秤量がしやすく、作物に対する汚れも少ない。

アプロードは日本農薬(株)の登録商標です。

有効成分	ブプロフェジン（化管法第1種）・・・20.0%	包装	100mL×10×6
その他化管法 該当成分	—		
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4 年
毒性	普通物*	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病虫害名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ブプロフェジンを含 む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ幼虫 ウンカ類幼虫	1000 倍	60～150L/10a	収穫 7 日前 まで	4 回以内	散布	4 回以内 (小包装投入は 1 回以内)
	ツマグロヨコバイ幼虫 ウンカ類幼虫	300 倍	25L/10a				
みかん	カイガラムシ類幼虫 ミカントゲコナジラミ若齢幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんきつ (みかんを 除く)	カイガラムシ類幼虫 ミカントゲコナジラミ若齢幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 45 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
りんご	カイガラムシ類幼虫	1000～ 1500 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
なし	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
もも	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ネクタリ ン	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
すもも	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
あんず	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前 まで	1 回	散布	1 回
うめ	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	プロフェジンを含 む農薬の総使用回数
くるみ	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
おうとう	カイガラムシ類幼虫	1000～ 1500 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
ぶどう	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	フタテンヒメヨコバイ幼虫	3000 倍					
いちじく	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
パッショ ンフルーツ	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
マンゴー	カイガラムシ類幼虫 チャノホコリダニ	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
ねぎ	ネダニ類	500～ 1000 倍	1～3L/m ²	収穫 14 日前 まで	1 回	株元 灌注	1 回
にら	ネダニ類	500～ 1000 倍	1～3L/m ²	収穫 14 日前 まで	1 回	株元 灌注	1 回
あさつき (伏せ込み 栽培)	ネダニ類	500 倍	3L/m ²	植付時	1 回	株元 灌注	1 回
らっきよ う	ネダニ類	250 倍	-	植付前	1 回	30 分 間種 球浸 漬	4 回以内 (種球への処理は 1 回以内、 株元灌注は 3 回以内)
		500 倍	1～3L/m ²	収穫 21 日前 まで	3 回以内	株元 灌注	
茶	クワシロカイガラムシ若齢幼虫	1000 倍	1000L/10a	摘採 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
樹木類	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	-	6 回以内	散布	6 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- (2) なしの萌芽期から新梢伸長期に使用する場合、薬液が乾きにくい条件下では、葉に褐色斑点等の薬害が生じるおそれがあるので、注意して使用する。但し、施設栽培ではこの時期での使用をさける。
- (3) にらに対して、年間複数回収穫を行う作型において本剤を連続で使用すると薬害を生じる場合があるので注意する。
- (4) 葉ねぎに対して、本剤を使用すると薬害を生じる場合があるので、事前に薬害の有無を確認してから使用する。
- (5) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗する。
- (2) 種球浸漬の際は不浸透性手袋などを着用する。
- (3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 13290 号

カルホス®粉剤

●ネキリムシ類・コガネムシ類幼虫などの土壌害虫を的確に防除します。
 特長： ●大豆などの害虫に有効です。
 ●接触毒により土壌害虫に有効でそのまま使えます。

カルホスは保土谷 UPL(株)の登録商標です。

有効成分	イソキサチオン（化管法第1種）・・・2.0%	包装	1kg×20
その他化管法該当成分	－		
性状	類白色粉末 45μm以下	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
だいこん	タネバエ ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時	1回	土壌表面散布土壌 混和处理	1回
はつかだいこん	タネバエ ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時	1回	土壌表面散布土壌 混和处理	1回
はくさい	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時又 は植付時	1回	土壌表面散布土壌 混和处理	1回
キャベツ	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	1回	土壌表面散布土壌 混和处理	1回
ねぎ	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	4回以内 (は種時は1回以内、 植付時は1回以内、 植付後は2回以内)
わけぎ	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	2回以内
あさつき	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	2回以内
レタス	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	2回以内
非結球ナス	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	2回以内
トマト	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	2回以内
ミニトマト	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	2回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
なす	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	2 回以内	土壌表面散布土壌 混和处理	2 回以内
きゅうり	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時 又は植付時	1 回	土壌表面散布土壌 混和处理	1 回
	タネバエ	4～6kg/10a (4～6g/m ²)	は種時			
ほうれんそう	タネバエ	4～6kg/10a (4～6g/m ²)	は種時	1 回	播溝土壌混和	1 回
なばな類 (オータムポエム を除く)	ヨトウムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時	1 回	土壌表面散布土壌 混和处理	1 回
オータムポエム	ヨトウムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	は種時	1 回	土壌表面散布土壌 混和处理	1 回
	ネキリムシ類		定植時		土壌表面散布	
だいず	タネバエ	4～6kg/10a (4～6g/m ²)	は種時	1 回	作条施用土壌混和	2 回以内
	ネキリムシ類		は種時 又は定植時	2 回以内		
	ネキリムシ類	4kg/10a (4g/m ²)	は種時～本 葉 2 葉期		土壌表面散布	
えだまめ	タネバエ ネキリムシ類	4～6kg/10a (4～6g/m ²)	は種時	1 回	作条施用土壌混和	5 回以内 (粉剤及び粉粒剤のは種時 の処理は合計 1 回以内、 粉剤及び粉粒剤の定植時 は合計 1 回以内、 粉剤の土壌表面散布は 1 回以内、 粒剤の土壌表面株元処理 は 2 回以内)
	ネキリムシ類		定植時		土壌表面散布	
	ネキリムシ類	4kg/10a (4g/m ²)	は種時～本 葉 2 葉期			
豆類 (種実、ただし、だ いずを除く)	タネバエ ネキリムシ類	4～6kg/10a (4～6g/m ²)	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
さやえんどう	コガネムシ類幼虫	9kg/10a (9g/m ²)	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
さやいんげん	タネバエ	6kg/10a (6g/m ²)	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
実えんどう	コガネムシ類幼虫	9kg/10a (9g/m ²)	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
いちご(仮植床)	コガネムシ類幼虫	9kg/10a (9g/m ²)	植付時	1 回	土壌表面散布土壌 混和处理	1 回
うど	センノカミキリ	6kg/10a (6g/m ²)	成虫飛来初 期～盛期	5 回以内	散布	5 回以内
ほうきぎ	ネキリムシ類	6kg/10a (6g/m ²)	定植時	1 回	株元散布	1 回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
たばこ	ネキリムシ類	6～9kg/10a (6～9g/m ²)	植付前	1 回	土壌表面散布土壌混和处理	2 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は地表面全面に均一に散布し、表層土壌とよく混和すること。作条処理の場合は、は種又は植付ける作条になるべく幅広く散布し、土壌とよく混和すること。植穴(播穴)処理はさけること。
- (3) DCPA 剤との同時施用及び10日以内の近接散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。
- (4) いちごに使用する場合は、仮植床で使い、床面全面に均一に散布して表土とよく混和すること。
- (5) うどのセンノカミキリの防除に使用する場合、地際部によくかかるよう散布すること。
- (6) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- (9) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- (2) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 18406 号

コロマイト®乳剤

- 土中の放線菌が生産する天然物から見出された原体であるため、有機 JAS に適合した農業でも利用可能な薬剤です。※
- ハダニ類、サビダニ類、チャノホコリダニなどを広範にカバーするとともに、ダニ以外でもハモグリバエ類やコナジラミ類の幼虫、野菜害虫にも優れた効果を発揮します。
- 特長： ●優れた即効性を有し、ハダニの卵から成虫まで全ステージへ効果を示します。
- ミツバチ、マルハナバチへの安全日数は1日です。
- ※ただし、地方自治体が独自に定める農薬使用基準ではカウントされる場合がありますので、必ず地方自治体の関係機関に確認して下さい。

コロマイトは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・1.0%	包装	30mL×10×4
その他化管法該当成分	トリメチルベンゼン(化管法第1種)・・・11% ポリ(オキシエチレン)＝アルキルフェニルエーテル (アルキル基の炭素数が9のものに限る。)(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	第4類第2石油類 非水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
りんご	－	ハダニ類 キンモンホソガ リンゴサビダニ ユキヤナギアブラムシ	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫前日 まで	1 回	散布	1 回
もも	－	ハダニ類 モモサビダニ	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫7日前 まで	1 回	散布	1 回
ネクタリン	－	ハダニ類 モモサビダニ	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫7日前 まで	1 回	散布	1 回
小粒核果類	－	ハダニ類	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫前日 まで	1 回	散布	1 回
いちじく	－	ハダニ類	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫前日 まで	1 回	散布	1 回
なし	－	ニセナシサビダニ	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫前日 まで	1 回	散布	1 回
		ハダニ類	1000～ 1500 倍					
おうとう	－	ハダニ類	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫7日前 まで	1 回	散布	1 回
パパイヤ	－	ハダニ類	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫7日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
あずき	-	ハダニ類	1000～2000 倍	100～150L/10a (100～150mL/m ²)	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず	-	ハダニ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
いんげんまめ	-	ハダニ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
豆類 (未成熟)	-	ハダニ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
いちご (親株床)	-	ハダニ類	1000～1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	仮植前まで	2 回以内	散布	2 回以内
なす	-	ハダニ類 ハモグリバエ類 コナジラミ類 チャノホコリダニ	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
トマト	-	ハモグリバエ類 トマトサビダニ コナジラミ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ミニトマト	-	ハモグリバエ類 トマトサビダニ コナジラミ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	-	ハダニ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
		チャノホコリダニ	1000～1500 倍					
ししとう	-	コナジラミ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
甘長とうがらし	-	コナジラミ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
きゅうり	-	ハダニ類	1000～1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
		コナジラミ類 チャノホコリダニ	1000～1500 倍					
		ハモグリバエ類	1000 倍					
きゅうり (花)	-	ハダニ類 コナジラミ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
きゅうり (葉)	-	ハダニ類 コナジラミ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用へちま	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
メロン	-	ハダニ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
すいか	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ科葉菜類(えごま(葉)、しそを除く)	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
えごま(葉)	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ	-	サビダニ類 チャノホコリダニ ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ(花穂)	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
モロヘイヤ	-	ハダニ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
エンサイ	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
ふだんそう	-	ハダニ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
アスパラガス	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さんしょう(葉)	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
なんてん(葉)	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
せんぶり	-	シクラメンホコリダニ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	1 回	散布	1 回
せり科葉菜類(みつば、コリアンダー(葉)、セルリー、せり(水耕栽培、あしたばを除く)	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前まで	1 回	散布	1 回
あしたば	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
みつば	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前まで ただし、伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
コリアンダー(葉)	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
セルリー	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
せり (水耕栽培)	ガラス室等の施設	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
かんしょ	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さといも	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さといも (葉柄)	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
はすいも (葉柄)	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
やまのいも	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
やまのいも (むかご)	-	ハダニ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みょうが (花穂)	-	ハダニ類	1000 倍	100～400L/10a (100～400mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する	2 回以内
みょうが (茎葉)	-	ハダニ類	1000 倍	100～400L/10a (100～400mL/m ²)	みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用金魚草	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用なでしこ	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
しょくようほおずき	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用ミニバラ	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用プリムラ	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用カーネーション	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用エキザカム	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用せんにちこう	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用トレニア	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用パンジー	-	ハダニ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
きく(葉)	-	ハモグリバエ類 ハダニ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
きく	-	ハモグリバエ類 ハダニ類	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	-	2 回以内	散布	2 回以内
宿根かすみそう	-	ハダニ類	1000～1500 倍	100～200L/10a (100～200mL/m ²)	-	2 回以内	散布	2 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- (2) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布すること。
- (3) 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用する。
- (4) ハモグリバエ防除に使用する場合は、老齢幼虫に対する効果が劣る場合があるので発生初期に時期を失せず、散布すること。
- (5) 高温、乾燥時の散布は薬害のおそれがあるのでさけること。
- (6) 展着剤によっては薬害を生ずるおそれがあるので、展着剤混用の際は事前にその適否を確認してから使用すること。
- (7) りんごに使用する場合は、混用散布すると新しょう基部及び果そう部小葉が黄化する場合があるので注意すること。
- (8) なしに使用する場合は、薬害のおそれがあるので6月以前には使用しないこと。
- (9) 洋なし(ル・レクチュ)に使用する場合は、薬害のおそれがあるので袋かけ後に散布すること。
- (10) なすに使用する場合は、効果を落さず薬害をさけるために、炎天下をさけなるべく夕方に散布すること。
- (11) なすの水なす及び加茂なす(大芹川種)には薬害のおそれがあるので、使用しないこと。
- (12) いちごに使用する場合は、親株床以外では薬害を生ずるおそれがあるので、親株床以外では使用しないこと。
- (13) 施設栽培いちじくでは果実や葉に薬害を生じるおそれがあるので、散布した薬液が乾きにくい条件での散布をさけること。特に梅雨時など、日照が少なく果実が着色しにくい時期の使用をさけること。なお、使用に際しては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) せり(水耕栽培)に使用する場合は、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (15) 蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。

- (16) ミツバチに対して軽度の影響があるので、以下のことに注意すること。
- 1) ミツバチの巣箱に直接かからないようにすること。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (17) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (18) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- (19) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22738 号

スターガード®粒剤

- 特長：
- 有効成分が植物体内に速やかに浸透移行して、茎や葉に到達します。発見しづらく防除も難しい微小害虫や潜葉性害虫への対策に効果を発揮する殺虫剤です。
 - 多くの野菜に登録があり、マイナー作物・地域特産作物にも広範囲に対応していますので、使用者のニーズに幅広く対応できます。「花き類」「つつじ類」にも使えますので、ガーデニングにも重宝する殺虫剤です。
 - 人畜・魚類・鳥類に毒性が低い化合物です。また、作物への葉害も生じにくく、扱いやすい殺虫剤です。
 - アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、コナガ・アオムシなど多くの害虫を、効率的に同時防除できます。
 - 多くの登録作物で、「定植時」と「生育期」の処理時期が選べます。

スターガードは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・1.0%	包装	300g×30
その他化管法該当成分	—		800g×18
性状	類白色細粒	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	—
※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。			

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
きゅうり	ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、定 植後の株元散布は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1～2g/株	定植時		植穴土壌混和	
		1g/株	生育期 但し、収穫開始 14 日前まで		株元散布	
メロン	ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、 散布は 2 回以内)
	アブラムシ類	1g/株				
	コナジラミ類	1～2g/株				
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、 定植後の株元散布は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
			生育期 但し、収穫 21 日前まで		株元散布	
かぼちゃ	アブラムシ類 コナジラミ類	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (定植時の土壌混和及び育苗トレイへの 灌注は合計 1 回以内、 散布は 2 回以内)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
なす	ハモグリバエ類 アザミウマ類 コナジラミ類	1～2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、 散布及び定植後の株元散布は 合計 2 回以内)
	アブラムシ類	定植時	植穴土壌混和			
		1g/株	生育期 但し、収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
			コナジラミ類			
ピーマン	アザミウマ類	1～2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、 散布及び定植後の株元散布は 合計 2 回以内)
	アブラムシ類	定植時	植穴土壌混和			
		1g/株	生育期 但し、収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
トマト	ハモグリバエ類 コナジラミ類	1～2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	5 回以内 (培土混和及び灌注は合計 1 回以内、 育苗期の株元散布は 1 回以内、 定植時の土壌混和は 1 回以内、 散布及び定植後の株元散布は 合計 2 回以内)
	アブラムシ類	定植時	植穴土壌混和			
		1g/株	生育期 但し、収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
			コナジラミ類			
ミニトマト	ハモグリバエ類 コナジラミ類	1～2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	5 回以内 (培土混和及び灌注は合計 1 回以内、 育苗期の株元散布は 1 回以内、 定植時の土壌混和は 1 回以内、 散布及び定植後の株元散布は 合計 2 回以内)
	アブラムシ類	定植時	植穴土壌混和			
		1g/株	生育期 但し、収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
			コナジラミ類			
とうがらし類	アザミウマ類	1～2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、 定植後の株元散布は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
	アブラムシ類	定植時	植穴土壌混和			
		1g/株	生育期 但し、収穫開始 14 日前まで		株元散布	

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の 土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、 散布及び無人航空機散布は 合計 2 回以内)
	アオムシ コナガ	2～3g/株				
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
はくさい	アブラムシ類	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
	アオムシ コナガ	2～3g/株				
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
レタス	アブラムシ類 ナモグリバエ	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	4 回以内 (は種前の培土混和は 1 回以内、 育苗期の株元散布、定植時の土壌混 和及び育苗トレイへの灌注は 合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
しそ	マデイラコナカイ ガラムシ	2g/株 (但し、1 m ² 当 り 25g まで)	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
えだまめ	フタスジヒメハムシ	6g/m ²	は種時	1 回	播溝土壌混和	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 散布、空中散布、無人航空機散布は 合計 2 回以内)
ブロッコ リー	アブラムシ類 コナガ	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は 合計 1 回以内、 散布及び無人航空機散布は 合計 2 回以内)
ねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類	6g/m ²	定植時	1 回	株元散布	4 回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの 灌注及び定植時の株元散布は 合計 1 回以内、 生育期の株元灌注は 1 回以内、 散布、無人航空機散布及び定植後の 株元散布は合計 2 回以内)
			生育期 但 し、収穫 3 日前まで	2 回以内		
にんじん	ハモグリバエ類	9g/m ²	は種時	1 回	播溝土壌混和	4 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 生育期の株元灌注は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
チンゲン サイ	キスジノミハムシ	6g/m ²	定植時	1 回	土壌混和	3 回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は 合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
	アブラムシ類 キスジノミハムシ		は種時		播溝土壌混和	

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
だいこん	アブラムシ類	6g/㎡	は種時	1回	播溝土壌混和	5回以内 (は種時の播溝土壌混和は1回以内、 は種時の全面土壌混和は1回以内、 粒剤の散布は1回以内、 水溶剤の散布、液剤の散布及び無人 航空機散布は合計2回以内)
	キスジノミハムシ	4～6g/㎡	は種時		播溝土壌混和	
		9g/㎡			全面土壌混和	
		6g/㎡	生育期 但し、収穫30日前まで		散布	
非結球あぶらな科 葉菜類(チンゲンサイを除く)	アブラムシ類 キスジノミハムシ	6g/㎡	は種時	1回	播溝土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
かぶ	アブラムシ類 キスジノミハムシ	6g/㎡	は種時	1回	播溝土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
ほうれんそう	アブラムシ類	6g/㎡	は種時	1回	播溝土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
だいず	フタスジヒメハムシ	6g/㎡	は種時	1回	播溝土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 散布、空中散布、無人航空機散布は 合計2回以内)
しゅんぎく	ハモグリバエ類	9g/㎡	は種時	1回	播溝土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は 合計1回以内、散布は2回以内)
			定植時		植溝土壌混和	
いちご	ワタアブラムシ	0.5～1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
オクラ	アブラムシ類	9g/㎡	生育期 但し、収穫開始14日前まで	1回	株元 散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
さやえんどう	ハモグリバエ類	9g/㎡	生育期 但し、収穫開始14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
きく	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1㎡当り30gまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	5回以内 (土壌混和は1回以内)
	マメハモグリバエ	2g/株 (但し、1㎡当り30gまで)				
	アブラムシ類	20g/㎡	生育期	5回以内	株元散布	
つつじ類	ツツジグンバイ	6g/㎡	発生初期	5回以内	株元散布	5回以内

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
ガーベラ	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1 m ² 当 り 30g まで)	定植時	1 回	植穴土壌混和	5 回以内 (土壌混和は1 回以内)
	マメハモグリバエ	2g/株 (但し、1 m ² 当 り 30g まで)				
	アブラムシ類	20g/m ²	生育期	5 回以内	株元散布	
花き類・観 葉植物(き く、ガーベ ラを除く)	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1 m ² 当 り 30g まで)	定植時	1 回	植穴土壌混和	5 回以内 (土壌混和は1 回以内)
	アブラムシ類	20g/m ²	生育期	5 回以内	株元散布	

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 間引き菜、つまみ菜に使用しないこと。
- (3) 本剤の株元散布を行う際は、処理直後に灌水すること。
- (4) みずかけな（水掛菜）、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用後 14 日間は入水しないこと。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにすること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (7) 作業中や散布当日は散布区域に小児やペットが立ち入らないように配慮すること。
- (8) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

宅地、駐車場等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、子供の手のとどかないなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、他の容器に移し替えて保管しないこと。

トレボン[®]乳剤

特長： ●速効的で長い残効性を持っています。
●野菜・果樹・花の多くの作物と害虫に使用できます。

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	30mL×10×4
その他化管法 該当成分	キシレン（化管法第1種）・・・33% エチルベンゼン（化管法第1種）・・・45%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5 年
毒性	普通物 [※]	危険物	第4 類第2 石油類 非水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

作物名	適用 場所	適用病虫害名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農 薬の総使用回数
稲	－	コブノメイガ	1000 倍	60～150L/10a (60 ～150mL/㎡)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イナゴ類	1000～ 2000 倍					
		カメムシ類 イネミズゾウムシ	2000 倍					
		ウンカ類	300～ 600 倍	25L/10a (250mL/㎡)				
		ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	300 倍					
		カメムシ類	600 倍					
麦類	－	ヒメトビウンカ アブラムシ類	2000 倍	60～150L/10a (60～150mL/㎡)	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
きび	－	アカスジカスミカメ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/㎡)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
あわ	－	アワヨトウ アワノメイガ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/㎡)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
とうもろ こし	－	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/㎡)	収穫 7 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
飼料用 とうもろ こし (子実)	－	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/㎡)	収穫 7 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
かんきつ	－	コアオハナムグリ ケシキスイ類	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫前日まで	3 回 以内	散布	3 回以内
		ミカンハモグリガ	1000～ 2000 倍					
		チャノキイロアザミウマ	2000 倍					
マンゴー	－	チャノキイロアザミウマ	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m ²)	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
ブロッコリー	－	アオムシ	1000～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
キャベツ	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
はくさい	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
だいこん	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 21 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
ねぎ	－	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 21 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
レタス	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
すいか	－	アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
きゅうり	－	アブラムシ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
メロン	－	アブラムシ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
かぼちゃ	－	コナジラミ類 ウリハムシ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
にがうり	－	アブラムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類 カメムシ類 ウリノメイガ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
なす	－	アブラムシ類	1000～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
		コナジラミ類	1000 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
トマト	-	コナジラミ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	-	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
オクラ	-	アブラムシ類 カメムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
さやえんどう	-	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
実えんどう	-	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さやいんげん	-	ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
えだまめ	-	マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
		ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍					
未成熟ささげ	-	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ばれいしょ	-	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんしょ	-	ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも	-	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも (葉柄)	-	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
やまのいも	-	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
やまのいも (むかご)	-	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ほうきぎ	-	ホウキギツツミノガ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農 薬の総使用回数
豆類 (種実、た だし、だ いず、あ ずきを除 く)	－	マメシНКイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
だいず	－	マメシНКイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
あずき	－	マメシНКイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ ノメイガ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
しょうが	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
薬しょう が	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
てんさい	－	ヨトウムシ	1000～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
せんきゅ う	－	ウリハムシモドキ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
モロヘイ ヤ	－	アザミウマ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	1 回	散布	1 回
あしたば	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
ふき	－	コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
うど	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	根株養成期 但し、収穫 45 日前まで	2 回 以内	散布	2 回以内
みつば	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 21 日前 まで 但し、伏せ込 み栽培は伏せ 込み前まで	2 回 以内	散布	2 回以内
食用ぎく	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 3 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
じゅんさい	じゅんさい田	マダラミズメイガ ジュンサイハムシ	1000 倍	100～300L/10a (100～150mL/m ²)	収穫前日まで	2 回 以内	散布	2 回以内
せり	水田	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～150mL/m ²)	収穫 30 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
せり (水耕栽培)	ガラス室 等の施設	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a (100～150mL/m ²)	収穫 30 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
みずいも	水田	オキナワイナゴモドキ	1000 倍	100～300L/10a (100～150mL/m ²)	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
茶	－	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～400L/10a (200～400mL/m ²)	摘採 21 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
たばこ	－	タバコガ ヨトウムシ	2000 倍	25～180L/10a (25～180mL/m ²)	収穫 10 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
		アブラムシ類 タバコノミハムシ	1000～ 2000 倍					
おうぎ	－	ウリハムシモドキ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	収穫 45 日前 まで	4 回以 内 (1 年 間に 2 回以 内)	散布	4 回以内(1 年間に 2 回以内)
とうき	－	キアゲハ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回 以内
採種用と うき	－	キアゲハ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	幼虫発生期	12 回 以内 (1 年 間に 6 回以 内)	散布	12 回以内 (1 年間に 6 回以 内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農 薬の総使用回数
樹木類 (つつじ 類、ポイン セチ ア、ソテ ツを除 く)	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a (100～700mL/m ²)	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
つつじ類	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a (100～700mL/m ²)	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍		－			
		ツツジゲンバイ						
ポインセ チア	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a (100～700mL/m ²)	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍		－			
		コナジラミ類	1000 倍					
ソテツ	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a (100～700mL/m ²)	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		クロマダラソテツシジミ	2000～ 4000 倍					
宿根かす みそう	－	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	－	6 回 以内	散布	6 回以内
		ヨトウムシ	2000 倍					
りんどう	－	ヒラズハナアザミウマ	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	－	6 回 以内	散布	6 回以内
きく	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	発生初期	6 回 以内	散布	6 回以内
カーネー ション	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	発生初期	6 回 以内	散布	6 回以内
ゆり	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	－	6 回 以内	散布	6 回以内
トルコギ キョウ	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m ²)	－	6 回 以内	散布	6 回以内
水田作 物、畑作 物(休耕 田)	ヨシ、オ ギ、スス キ、セイ タカアワ ダチソウ 等の多年 生雑草が 優占して いる休耕 田	カメムシ類	2000 倍	60～150L/10a (60～150mL/m ²)	－	3 回 以内	散布	3 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
- (6) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (7) きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用をさけること。
- (8) 採種用とうきに使用する場合は、根部及び葉を収穫せず、種子の収穫に限ること。
- (9) 水耕栽培に使用する場合は、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (10) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数 300～600 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (11) 本剤は自動車等の塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (12) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (5) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。
- (6) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので、十分注意すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 16753 号

トレボン®粉剤 DL

特長： ●水稲や大豆などの広範囲の害虫に効果を示します。
●速効的で長い残効性を持っています。

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.50%	包装	1kg×20
性状	類白色粉末 45μm 以下、浮遊性指数 20 以下	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	－	イネツトムシ	4kg/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
		カメムシ類 イネミズゾウムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ アザミウマ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ	3～4kg/10a				
		イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ	3kg/10a				
小麦	－	ヒメトビウンカ アブラムシ類	4kg/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
豆類(種実)	－	ハスモンヨトウ マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ アブラムシ類 アズキノメイガ	4kg/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
やまのいも	－	シロイチモジヨトウ	4kg/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも	－	ハスモンヨトウ	4kg/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
えだまめ	－	ハスモンヨトウ	3～4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
		マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ	4kg/10a				
ばれいしょ	－	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
かんしょ	－	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
とうもろこし	－	アワノメイガ	4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
飼料用 とうもろこし(子実)	－	アワノメイガ	4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
トマト	－	コナジラミ類	4kg/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり	－	ウリハムシ	3～4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		アブラムシ類	4kg/10a				
なす	－	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
okra	－	アブラムシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
すいか	－	ハスモンヨトウ ウリハムシ	4kg/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
かぼちゃ	－	コナジラミ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	－	ハスモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ	3～4kg/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	－	アオムシ	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		コナガ	4kg/10a				
だいこん	－	アオムシ	3～4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
		ダイコンハムシ	4kg/10a				
れんこん	－	マメコガネ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	3～4kg/10a	－	3回以内	散布	3回以内

使用上の注意事項

- (1) 本剤は飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) イネミズゾウムシ成虫に使用する場合、移動範囲が広いのでなるべく広域でいっせいに防除し、畦畔などの周辺雑草にも散布すること。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (4) 作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22511 号

MIC[®]ナメクジ退治

- 薬剤を摂食すると作物の食害を速やかに停止します。
 ●パラパラ撒いておくだけで処理が簡単です。
- 特長： ●雨、湿気に強い製剤です。
 ●有効成分は天然にも存在するため、イヌ・ネコのいる場所でも処理できます。
 ●全ての作物に収穫直前まで使用可能で、有機農産物の栽培にも使えます。（有機JAS 適合品）

MIC は三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	磷酸第二鉄水和物・・・0.98% / (鉄として・・・0.28%)	包装	120g×10×4
その他化管法該当成分	—		300g×20 700g×20
性状	類白色粒状	有効年限	5 年
毒性	普通物 [※]	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	磷酸第二鉄を含む農薬の総使用回数
ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等	温室、ハウス、圃場、花壇	ナメクジ類 カタツムリ類	1～5g/m ²	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置	—
		アフリカマイマイ	3～5g/m ²				
		ヒメリンゴマイマイ	5g/m ²				

使用上の注意事項

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 作物体上に本剤がかからないよう作物周囲あるいは株元の土壌表面に処理すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22485 号

ネキリエース®K

- 特長：
- 防除困難なネキリムシ老令幼虫にも高い効果を示します。
 - 土壌表面や作物の株元にまくだけなので害虫防除が簡単に出来ます。
 - コオロギにも有効です。
 - 優れた誘引作用で虫を引きつけます。

ネキリエースは保土谷化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	イソキサチオン・・・0.5%	包装	600g×20
その他化管法該当成分	—		
性状	赤紫色粒状 粒径 3mm 粒長 2mm～10mm	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む 農薬の総使用回数
はくさい	コオロギ類 ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時～生育初期 但し、収穫 14 日前まで	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
キャベツ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
だいこん	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
はつかだいこん	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
ブロッコリー	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	定植時～生育初期 但し、収穫 14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
レタス	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時～生育初期 但し、収穫 21 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	2 回以内
非結球レタス	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	2 回以内	土壌表面 株元処理	2 回以内
なばな	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	発芽期まで	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
だいず	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時～本葉 2 葉期	2 回以内	土壌表面 株元処理	2 回以内
いちご	ハスモンヨトウ	3kg/10a (3g/m ²)	収穫前日まで	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
葉ごぼう	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時～子葉展開期	2 回以内	土壌表面 株元処理	2 回以内

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む 農薬の総使用回数
えだまめ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 21 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	5 回以内 (粉剤及び粉粒剤の は種時の処理は 合計 1 回以内、 粉剤及び粉粒剤の 定植時は合計 1 回以内、 粉剤の土壌表面散布は 1 回以内、 粒剤の土壌表面株元処理 は 2 回以内)
さといも	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
ごぼう	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
かぶ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 30 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	2 回以内
ねぎ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 30 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内 (は種時は 1 回以内、 植付時は 1 回以内、 植付後は 2 回以内)
にんじん	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	発芽期～生育初期 但し、収穫 14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
メロン	コオロギ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫直前まで	1 回	配置	1 回
えごま(種子)	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	定植時	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
たばこ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	植付時	1 回	株元処理	2 回以内

使用上の注意事項

- (1) 被害の発生をみたら作物の根際にそのまま散布すること。
- (2) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (3) メロンに使用する場合には、以下の点に注意すること。
 - 1) 収穫前増糖時の乾燥期にコオロギによる食害が発生するので、食害防止に使用すること。
 - 2) 果実にかからないように果実周辺に 1 カ所あたり数粒ずつ容器に入れ、土壌表面、あるいは床面に配置すること。
 - 3) 雨や水がかかると効果が低下するので、ハウスで使用する場合は、できるだけ灌水がかからない場所に配置すること。また、露地で使用する場合は、降雨の予想されるときには使用を避けること。
- (4) 犬、猫などペット類、家畜が食べないようにすること。食べる可能性のあるところでは使用及び保管をしないこと。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM 製剤が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

- (4) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをする。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
(2) 散布器具および容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号第 18210 号

ネビジン®粉剤

●幅広いアブラナ科作物の根こぶ病に安定した効果を示します。
 特長： ●残効性に優れ長期間効果が持続します。
 ●毎年の連用により、効果がより一層安定します。

ネビジンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルスルファミド・・・0.30%	包装	1kg×20
性状	淡黄色粉末 45 μm 以下	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルスルファミドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	菌核病	30kg/10a (30g/m ²)	定植前	2 回以内	全面土壌混和	2 回以内
	根こぶ病	20～30kg/10a (20～30g/m ²)	は種又は定植前		作条土壌混和	
		20kg/10a (20g/m ²)				
はくさい	根こぶ病	20～30kg/10a (20～30g/m ²)	は種又は定植前	1 回	全面土壌混和	1 回
		20kg/10a (20g/m ²)			作条土壌混和	
ブロッコリー	根こぶ病	20～30kg/10a (20～30g/m ²)	は種又は定植前	1 回	全面土壌混和	1 回
		20kg/10a (20g/m ²)			作条土壌混和	
カリフラワー	根こぶ病	20～30kg/10a (20～30g/m ²)	は種又は定植前	1 回	全面土壌混和	1 回
		20kg/10a (20g/m ²)			作条土壌混和	
非結球あぶら な科葉菜類（な ばな類を除く）	根こぶ病	20～30kg/10a (20～30g/m ²)	は種又は定植前	1 回	全面土壌混和	1 回
		20kg/10a (20g/m ²)			作条土壌混和	
レタス 非結球レタス	菌核病	20～30kg/10a (20～30g/m ²)	定植前	1 回	全面土壌混和	1 回

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルスルファミドを含む農薬の総使用回数
なばな類	根こぶ病	20～30kg/10a (20～30g/m ²)	は種又は定植前	1 回	全面土壌混和	1 回
			は種前		作条土壌混和	
		20kg/10a (20g/m ²)	定植前		作条土壌混和	
かぶ	根こぶ病	30kg/10a (30g/m ²)	は種又は定植前	1 回	全面土壌混和	1 回
		20kg/10a (20g/m ²)			作条土壌混和	
だいこん	根こぶ病	30kg/10a (30g/m ²)	は種前	1 回	全面土壌混和	1 回
ばれいしょ	そうか病	30kg/10a (30g/m ²)	植付時	1 回	作条土壌混和	2 回以内 (種いも浸漬は 1 回以内、 土壌混和は1 回以内)
	そうか病 粉状そうか病	60kg/10a (60g/m ²)			全面土壌混和	

使用上の注意事項

- (1) 本剤の所定量を作条又は全面に散布し、土壌とよく混和した後、は種、定植又は植付けすること。
- (2) 本剤の作条土壌混和を行う際は、本剤の所定量を畦上全面に散布し、土壌中に均一に分布するようによく混和すること。
- (3) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (4) ばれいしょのそうか病に対しては、多発性条件では効果が劣る場合があるので注意すること。
- (5) みずかけなに使用する場合、水掛け開始は薬剤処理後2ヵ月以降を厳守すること。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないように注意すること。
- (2) 本剤による中毒（痙攣）の治療法としては動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 9625 号

サンヨール®

- 野菜と花の病気や害虫の防除に最適です。
- 特長： ●農薬の適用作物や適用病害虫など広範に登録があります。
- 薬害が少なく、化学的、物理的に安定した薬剤です。

サンヨールは米澤化学（株）の登録商標です。

有効成分	DBEDC・・・20.0%	包装	100mL×10×6
その他化管法該当成分	－		
性状	淡青色乳剤	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	第 4 類第 2 石油類 水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
さやえんどう	うどんこ病 灰色かび病	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
実えんどう	うどんこ病 灰色かび病	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
なす	うどんこ病 すすかび病	700 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
トマト	葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
	うどんこ病	500～700 倍					
ミニトマト	葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
	うどんこ病	500～700 倍					
ピーマン	うどんこ病 アブラムシ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
甘長とうがらし	うどんこ病 アブラムシ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
すいか	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
メロン	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
うり類 (漬物用)	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
にがうり	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
かぼちゃ	うどんこ病	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
スッキーニ	うどんこ病	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
いちご	うどんこ病	500 倍	-	定植前	1 回	瞬間～ 5 分間 苗浸漬	6 回以内 (定植前の苗浸漬 は 1 回以内)
		800 倍				5 分間 苗浸漬	
		500～1000 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	6 回 以内	散布	
	灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	収穫前日 まで	6 回 以内	散布	
花き類・観葉植 物(きく、ばら、 ペチュニア、ス ターチス、プリ ムラ、パンジー を除く)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	発生初期	8 回 以内	散布	8 回以内
きく	うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 白さび病 黒斑病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	発生初期	8 回 以内	散布	8 回以内
スターチス	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	発生初期	8 回 以内	散布	8 回以内

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
ばら	うどんこ病	500～1000 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	発生初期	8 回 以内	散布	8 回以内
	灰色かび病 黒星病 アブラムシ類 ハダニ類 チュウレンジハダニ	500 倍					
ペチュニア	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	開花前 まで	8 回 以内	散布	8 回以内
	ナメクジ類	250～500 倍					
プリムラ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	開花前 まで	8 回 以内	散布	8 回以内
パンジー	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300L/10a (100 ～300mL/m ²)	開花前 まで	8 回 以内	散布	8 回以内
樹木類 (つつじ類を 除く)	うどんこ病 アブラムシ類	500 倍	200～700L/10a (200 ～700mL/m ²)	発生初期	8 回 以内	散布	8 回以内
つつじ類	ツツジゲンバイ ツツジコナジラミ うどんこ病 アブラムシ類	500 倍	200～700L/10a (200 ～700mL/m ²)	発生初期	8 回 以内	散布	8 回以内
たばこ	うどんこ病	500 倍	25～180L/10a (25 ～180mL/m ²)	－	2 回 以内	散布	2 回以内
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ) さび病	300～500 倍	0.5L/m ²	発生初期	8 回 以内	散布	8 回以内

使用上の注意事項

- (1) 高温で作物に薬害を起こす恐れのあるときは使用に注意する。ハウス又は露地栽培では高温時の使用をさける（薬害）
- (2) 湿度の多い施設内で使用する場合は、散布した薬液が速く乾燥するように通気性をよくして散布する。
- (3) いちごの灰色かび病の多発時には効果が劣ることがあるので、発生初期に予防的に使用する（効果）
- (4) いちごの苗浸漬に使用する場合、根を露出した状態では薬害を生じるので、ポット苗（ポットをつけたまま）以外には使用しない（薬害）
- (5) パンジー、スターチス、ペチュニア、プリムラに使用する場合は、花卉に変色症状等の薬害が生ずるので、開花中は使用しない（薬害）
- (6) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受ける。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗いし、眼科医の手当てを受ける。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石鹼でよく洗い落とす。
- (4) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石鹼でよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- (7) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札をたてるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

一時に広範囲に使用する場合には十分注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

危険物第四類第二石油類に属するので、火気に十分注意すること。

貯蔵上の注意事項-----

密栓し、火気・直射日光をさけ、食品と区別して、低温な場所に保管すること。

登録番号 第 20849 号

サンヨール®液剤 AL

●本製品は、長年、農家にご愛用頂いているサンヨール®乳剤をご家庭でも使いやすいように希釈したそのまま使用の特長： えるスプレー剤です。

●この 1 本で花と野菜のアブラムシ類・コナジラミ等の殺虫と、うどんこ病などの殺菌に効果があります。

サンヨールは米澤化学（株）の登録商標です。

有効成分	DBEDC・・・0.04%	包装	400mL×30 1000mL×16
その他化管法該当成分	—		
性状	淡青紫色澄明液体	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 べと病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
トマト	うどんこ病 葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
ミニトマト	うどんこ病 葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
ピーマン	うどんこ病 アブラムシ類	原液	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
すいか	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
メロン	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
かぼちゃ	うどんこ病	原液	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
いちご	ハダニ類 うどんこ病 アブラムシ類	原液	収穫前日 まで	6 回以内	散布	6 回以内 (定植前の苗浸漬は 1 回以内)
ばら	アブラムシ類 チュウレンジノミチ 黒星病 ハダニ類 うどんこ病 ナメクジ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
きく	白さび病 アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病 ナメクジ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
ペチュニア	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前ま で	8 回以内	散布	8 回以内
スターチス	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前ま で	8 回以内	散布	8 回以内
プリムラ	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前ま で	8 回以内	散布	8 回以内
パンジー	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前ま で	8 回以内	散布	8 回以内
さるすべり	うどんこ病 アブラムシ類 カイガラムシ類 ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
まさき	ツノロウムシ ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
さざんか	ツノロウムシ ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
つつじ類	ツツジグンバイ ツツジコナジラミ ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
樹木類 (つつじ類、まさき、さるすべり、 さざんかを除く)	ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
花き類・観葉植物 (きく、ばら、ペチュニア、スターチ ス、プリムラ、パンジーを除く)	うどんこ病 ハダニ類 アブラムシ類 ナメクジ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ) さび病	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内

使用上の注意事項

- (1) ハウスまたは露地栽培で高温時の場合には葉の変色等の薬害を生ずるおそれがあるので、その場合は使用をさけること。
- (2) 多湿下の施設内で使用する場合は、散布した薬液が速く乾燥するように通気性をよくして散布すること。
- (3) スターチス、パンジー、ペチュニア、プリムラに使用する場合は、花卉に変色症状の薬害が生ずるので開花中は使用しないこと。
- (4) ナメクジ類に対して使用する場合は、薬液が虫体にかかるように散布すること。
- (5) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6) 害虫防除の場合、本剤は界面活性系のため、虫体の気孔・気門閉塞作用によって殺虫効果を生じさせるので、十分量虫体にかかるように散布すること。また、一度の散布で害虫が残った場合には改めて散布して下さい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 人に向かって噴射しないこと。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は、保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 本剤を施設内で使用するとき、アルコール濃度が高いため特にアルコールに弱い体質の方は、揮発性ガスにより気分が悪くなったり、酔う恐れがあるので、換気を十分にすること。
- (8) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

本剤は水産動物に影響を及ぼすが、通常的使用方法では問題ない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

引火性があるので、火気に十分注意すること。

貯蔵上の注意事項

- (1) 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。
- (2) 子供の手の届かない場所に保管すること。

登録番号 第 23228 号

サンヨール®トレボン®スプレー

●本製品は、長年、農家にご愛用いただいているサンヨール乳剤と、花・野菜用殺虫剤のトレボン乳剤をご家庭でも使いやすい様に希釈したそのまま使えるスプレー剤です。

●ばら・きくのアブラムシ類・うどんこ病、お花のうどんこ病に、きゅうり・トマトの虫・病気にも効果があります。

サンヨールは米澤化学（株）の登録商標です。トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.020% DBEDC・・・0.040%	包装	1000mL×16
その他化管法該当成分	－		
性状	淡青紫色水溶性懸濁液体	有効年限	3 年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロックスを 含む農薬の総使用回数	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 べと病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内	4 回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内	4 回以内
きく	うどんこ病 白さび病 アブラムシ類 ハダニ類	原液	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内	8 回以内
ばら	うどんこ病 黒星病 アブラムシ類 チュウレンジハバチ ハダニ類	原液	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内	8 回以内
花き類・観 葉植物 (ばら、き くを除く)	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類 ナメクシ類	原液	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内	8 回以内
樹木類	うどんこ病 アブラムシ類 ケムシ類	原液	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内	8 回以内

使用上の注意事項-----

- (1) 使用に際しては容器をよく振ること。
- (2) ハウス又は露地栽培で高温時の場合には葉の変色等の薬害を生ずるおそれがあるので、その場合は使用をさけること。
- (3) 多湿下の施設内で使用する場合は、散布した薬液が速く乾燥するように通気性をよくして散布すること。
- (4) ミツバチ及び蚕に対して影響があるので、注意して使用すること。
- (5) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (4) 人に向かって噴射しないこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

引火性があるので、火気に十分注意すること。

貯蔵上の注意事項-----

- (1) 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。
- (2) 子供の手の届かない場所に保管すること。

登録番号 第 22939 号

クサクリア®

●葉や茎から吸収され、雑草体内に移行し、根まで枯れる除草剤です。

特長： ●スギナ、セイタカアワダチソウ、イタドリ、ヤブガラシ、ススキ、ササなどの雑草、かん木を根まで枯らし
す。

クサクリアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩（化管法第1種）・・・41.0%	包装	500ml×20 1L×12 5L×4
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

●注入処理

作物名	適用 場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
果樹類 (かんきつ、パイナ ップルを除く)	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布	3 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
かんきつ	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布	3 回 以内	雑草茎 葉散布	5 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
かんしょ	-	一年生雑草	耕起又は 挿苗7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
豆類 (種実、ただし、 だいず、らっかせ いを除く)	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	2 回 以内	雑草茎 葉散布	2 回以内
えだまめ	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1 回	雑草茎 葉散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
野菜類 (えだまめ、キャベツ、はつかだいこん、だいこん、とうがらし類、にんじん、ピーマン、ねぎ、たまねぎ、アスパラガス、オリーブ(葉)、きゅうり、たらきのき、トマト、なす、びわ(葉)、ほうれんそう、レタス、薬用にんじん、豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)、かんしょを除く)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 2 5～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	1回
だいず	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	2回 以内	雑草茎 葉散布	4回以内
			は種後出芽前まで (雑草生育期)		通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
			畦間処理： 雑草生育期 但し、 収穫前日まで					
とうがらし類	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
にんじん	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
ピーマン	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
アスパラガス	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
オリーブ (葉)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
きゅうり	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
しゃくやく (薬用)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
たらのき	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
トマト	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
なす	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
びわ(葉)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
ほうれんそう	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
レタス	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
薬用ニンジン	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	10回以内 (1年間に 2回以内)
キャベツ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	1回
だいこん	-	一年生雑草	耕起又は は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
はつかだいこん	-	一年生雑草	耕起又は は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	1回
たまねぎ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3回 以内	雑草茎 葉散布	3回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫30日前まで (雑草生育期)		通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
さとうきび (春植え)	-	一年生雑草	耕起10日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布	1回	雑草茎 葉散布	6回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
麦類 (小麦を除く)	-	一年生雑草	耕起7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
			は種後出芽前 (雑草生育期)		通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
小麦	-	多年生イ科雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	250～1000 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		一年生雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a				
			は種後出芽前 (雑草生育期)					
		多年生雑草	耕起 7 日前まで (雑草生育期)	500～1000 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1 回		
	圃場 内の 周縁 部	一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	250mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3 回 以内		
ねぎ	-	一年生雑草	耕起又は 定植 7 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫 30 日前まで (雑草生育期)		通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
水田作物 (水稻を除く)	-	一年生雑草	耕起 20～10 日前 (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
移植水稻	-	一年生雑草	耕起 20～10 日前 (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
			湛水 30～5 日前 (雑草生育期) (不耕起栽培)		50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
		多年生雑草	湛水 30～5 日前 (雑草生育期) (不耕起栽培)	500～1000 mL/10a	50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
直播水稻	-	一年生雑草	耕起 20～10 日前 (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 ^{リットル} /10a 少量散布 5～15 ^{リットル} /10a	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
			耕起直後～出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)	250～1000 mL/10a	少量散布 25～50 ^{リットル} /10a	2 回 以内		
			は種 30 日前 ～出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)					
		多年生雑草	起直後～出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)	500mL/10a	50 ^{リットル} /10a			
			は種 30 日前 ～出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)					
水田作物 (水田刈跡)	水田 刈跡	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1 回	雑草茎 葉散布	1 回
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物 (水田畦畔)	水田 畦畔	一年生雑草	収穫 14 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 ^{リットル} /10a 少量散布 25 ^{リットル} /10a	2 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕 田	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	2 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
茶	-	一年生雑草	摘採 7 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 ^{リットル} /10a	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
牧草	牧野、 草地 (更 新・ 造成)	一年生雑草	更新・造成の 10 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50 ^{リットル} /10a 少量散布 5～15 ^{リットル} /10a	2 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
		一年生 及び 多年生雑草	は種 10 日前 ～は種当日 (耕起整地後： 雑草発生揃期)	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 ^{リットル} /10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
樹木類	-	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a	4回 以内	雑草茎 葉散布	4回以内
樹木等	公園、 庭園、 堤とう、駐 車場、 道路、運 動場、宅 地、のり 面、鉄 道等	一年生雑草	雑草生育期	500mL/10a	通常散布 100 ^{リットル} /10a 少量散布 25 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	3回 以内	植栽地 を除く 樹木等 の周辺 地に雑 草茎葉 散布	3回以内
		多年生雑草	雑草生育期	1000 mL/10a				
		スギナ	生育盛期	2000 mL/10a	少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a			
林木	造林 地(地 ごし らえ)	スギ、ササ、 クズ等の 多年生雑草	生育盛期以降	1000 mL/10a	少量散布 20～30 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	3回 以内	雑草木 茎葉散 布	3回以内
		落葉 雑かん木						

●注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
林木	林地	クズ	春期又は 秋期	原液又は 2倍液	1～2mL/株	-	株頭 注入処理	-
		落葉雑かん 木	5～10月		1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm 以下 2～3 10～20cm 4～8、 20cm 以上 10		立木 注入処理	
	林地、放置竹 林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本		竹稈 注入処理	
畑作物	林地、放置竹 林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本	-	竹稈 注入処理	-
樹木等	公園、庭園、堤 とう、駐車場、 道路、運動場、 宅地、のり面、 鉄道等	落葉雑かん 木	5～10月	原液又は 2倍液	1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm 以下 2～3、 10～20cm 4～8、 20cm 以上 10	-	立木 注入処理	-
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に十分 量を塗布		植栽地を除 く樹木等の 周辺地に切 株塗布処理	

使用上の注意事項-----

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (3) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (4) 展着剤の加用の必要はない。
- (5) 本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (6) 本剤は雑草生育期（草丈 30cm 以下）に有効なので、時期を失しないように散布すること。
- (7) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (8) 本剤は通常 2～14 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (9) スギナ防除に際しては、スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣る事があるので、適期にスギナにかかるように注意して散布すること。
- (10) 処理後 6 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (11) 少量散布の場合は、希釈水量に応じた少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面に均一に散布すること。
- (12) 水田への飛散、流入等により水稻に薬害を生じるので、十分注意すること。
- (13) 出芽前に使用する場合、作物の出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- (14) 注入処理における注意事項
 - 1) クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理すること。
 - 2) 落葉雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理すること。
 - 3) 処理竹から 15m 以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札によりたけのこが採取されないようにすること。
- (15) 雑かん木に塗布処理を行う場合は、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
- (16) 特に生育期畦間散布に使用する場合には作物にかからないよう十分注意して散布すること。
- (17) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないよう十分注意すること。
- (18) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (20) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
- (21) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 養魚田周辺での使用には、特に注意すること。
- (3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 21825 号

クサレンジャー®

特長： ●しつこい雑草も根まで枯らす、そのままける粒剤タイプです。
●1.8kg 入で約 54 粒、2kg 入で約 60 坪にまけます。

クサレンジャーは丸和バイオケミカル㈱の登録商標です。

有効成分	プロマシル（化管法第 1 種）・・・1.0% DCMU（化管法第 1 種）・・・3.0%	包装	1.8kg×12 2kg×8
性状	淡褐色細粒	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロマシルを含む農薬の総使用回数	DCMU を含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、鉄道等	一年生雑草	雑草発生前	7.5～15 g/㎡	2 回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壌散布	2 回以内	3 回以内
			雑草生育初期(草丈 20cm 以下)	10～20 g/㎡				
		多年生広葉雑草	雑草生育初期(草丈 20cm 以下)	10～20 g/㎡				
			雑草生育初期(草丈 20cm 以下)	20～40 g/㎡				

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 植栽地を除く樹木等の周辺地で使用する場合は、薬剤が樹木等の植栽地に流入または飛散するおそれがある場所等では使用しないこと。
- (3) 本剤はセイタカアワダチソウ、イタドリ等大型多年生広葉雑草には効果が劣るので、これらの雑草の優占地では使用しないこと。
- (4) 本剤が植物の根から吸収されると葉害が発生するので、水田や水田への利用が考えられる用水路等に本剤の流入が想定される場所や、農作物および樹木等有用植物の付近では使用しないこと。
- (5) 本剤が流出するような激しい降雨が予想される場合は散布を行わないこと。
- (6) 傾斜地や砂質土壌では、本剤の流出による葉害のおそれがあるので使用しないこと。
- (7) 本剤を使用した場所やその付近では、有用植物の植付けは行わないこと。
- (8) ハウス等の施設内およびその周辺では使用しないこと。
- (9) 土壌が乾燥しているときは効果が劣る場合があるので、適度の湿り気のあるときに均一に散布すること。
- (10) 水源池、飲料水、灌漑用井戸、養殖池等に本剤の飛散や流入及び浸透が想定される場所では散布を行わないこと。
- (11) 散布器具、容器はよく洗浄し、洗浄廃液は直接河川や用水路に流れ込まないように十分注意し、環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (12) 空袋、空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないように注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (4) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (5) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24560 号

フレピオン®シャワー

- 特長：
- 高い殺草効果と長い抑草期間が期待できます。
 - 多年生雑草の再生を強く抑制します。
 - 多年生雑草のススキ、チガヤ、ササ、クズ等に効果があります。
 - 薄めずそのまま使えるシャワータイプです。

フレピオンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートナトリウム塩・・・0.135% テトラピオン・・・0.20%	包装	2.5L×8 5L×4
性状	無色透明水溶性液体	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数	テトラピオン を含む農薬の 総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	多年生雑草 (スギナ、クローバーを除く)	雑草 生育期	100～300ml/m ² (原液散布)	2 回 以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3 回以内	2 回以内

農薬の使用上の注意事項

- (1) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、雑草の草丈が 50～100cm の時に散布し、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (2) 本剤は通常 2～14 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (3) 処理後 6 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (4) 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意して使用すること。
- (7) 空容器は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (8) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
- (9) 本剤の散布に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用するときは、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法
 - 1) 農薬使用者に係る注意事項
 - ① 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
 - ② 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
 - ③ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄張りや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

- ④ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。
 - ⑤ 子供の手の届かない場所に保管すること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法使用に際して講ずべき被害防止方法
- 1) 該当なし

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----
この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----
通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項-----
直射日光をさけ、食品と区別して、子供の手の届かないなるべく低温な場所に密栓して保管すること。

生防協登録品

ムカデ退治粉剤

- 特長：
- 歩行性の不快害虫専用の駆除剤です。
 - 散布中に空中に飛散しにくい重質粉剤です。（重質粉剤とは、一般的な粉剤と比べ 1.5～2 倍程度の比重の粉剤）
 - 合成ピレスロイド原体「エトフェンプロックス」とカーバメート系の「カルバリル」が有効成分です。「有機リン成分」を含まないため、有機リン特有なニオイがありません。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.2% カルバリル（化管法 1 種）・・・2.0%	包装	3kg×4
その他化管法該当成分	—		
性状	類白色粉末	有効年限	—
毒性	普通物 [※]	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

使用に際しての注意

- (1) 使用前に必ずラベルをよく読み、十分理解した上で使用すること。
- (2) 目的とする効能、効果にそって定められた用法・用量を厳守して使用すること。間違った使い方をすると、効力不足や健康をそこなうことがあります。
- (3) 人体に使用しないこと。
- (4) 環境を汚染しないために乱用は避けること。又井戸、地下水等の水質を汚染する恐れのある場所、養蜂、蚕、魚や水棲動物等に被害を及ぼす恐れのある場所では使用しないこと。
- (5) 小分けするときは、食品用の容器等まちがって使用される恐れのあるものを使用しないこと。
- (6) 食品、食器、飼料、おもちゃ、寝具、衣類、愛玩動物、観賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器、電気製品等はあらかじめ他へ移すか、薬剤がかからないようにすること。
- (7) 病人、特異体質者、妊婦、乳幼児等がいる場所には使用しないこと。

使用中使用後の注意

- (1) なるべく身体の一部を露出部を少なくして薬剤を浴びないようにするとともに、できるだけ吸い込まないように注意すること。また、必要に応じて使用後は換気を行うこと。
- (2) 散布作業後、あるいは皮膚についたときは、石けんと水でよく洗い、うがいをすること。なお、目に入った場合は、直ちに水でよく洗い流すこと。
- (3) 植物にかかると枯れることがありますので注意すること。
- (4) 万一、身体に異常を起こした場合や、まちがって薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに本剤の商品名、成分名を医師につげて診療を受けること。

保管上の注意

- (1) 食品、食器、飼料等と区別し、直射日光を避け、子供の手の届かない乾燥した涼しい場所に保管すること。
- (2) 残った薬剤は必ず保管場所にもどし、容器は確実に封をすること。

その他の注意

- (1) 散布に用いた器材はよく手入れをしておくこと。
- (2) 使用済みの空容器等は、みだりに捨てたりせず、適切に処分すること。
- (3) 購入した薬剤は速やかに使用すること。
- (4) 表示に記載した使用方法や注意事項などを守らないで生じた事故についての責任は負うことができません。
- (5) 使用に際してのご不明な点や事故等があった場合は販売元へご連絡下さい。

ウッドスター®

- 本剤は、極めて少ない注入量で処理時の注入性を向上することにより、注入作業を時間短縮、大掛かりな散布器具や注入容器も不要です。
- 極めて少ない注入量で、樹体への影響を最小限にとどめます。これまで評価した樹木で、薬害が観察された事例はありません。
- 薬液の飛散・環境流出がない樹幹注入剤です。
- 本剤は、処理適期の 1 回処理で対象害虫の当年発生を抑えます。
- 本剤を各種害虫発生前～発生初期に樹幹注入することにより、速やかに有効成分ジノテフランが葉部へ行き渡り、公園、街路樹等の食葉性吸汁性の主要害虫を中心に優れた殺虫効果が得られます。

特長：

ウッドスターはサンケイ化学(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第 1 種）・・・8.0%	包装	450ml×2
その他化管法該当成分	－		
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
樹木類 (つばき類 を除く)	ケムシ類	胸高直径 6cm～10cm：8～12ml、 10cm～20cm：12～24ml、 20cm～30cm：24～36ml、 30cm～40cm：36～48ml、 40cm～50cm：48～60ml、 50cm～60cm：60～72ml、 以降、直径が 10cm 増す毎に 12ml を 追加する	幼虫発生前 ～発生初期 但し新葉展開後	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内
さくら	イラガ類	胸高直径 6cm～10cm：8～12ml、 10cm～20cm：12～24ml、 20cm～30cm：24～36ml、 30cm～40cm：36～48ml、 40cm～50cm：48～60ml、 50cm～60cm：60～72ml、 以降、直径が 10cm 増す毎に 12ml を 追加する	幼虫発生前 ～発生初期 但し新葉展開後	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内
	クビアカツ ヤカミキリ	注入部直径 6cm～10cm：8～12ml、 10cm～20cm：12～24ml、 20cm～30cm：24～36ml、 30cm～40cm：36～48ml、 40cm～50cm：48～60ml、 50cm～60cm：60～72ml、 以降、直径が 10cm 増す毎に 12ml を 追加する	新葉展開後 ～落葉前まで	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
アメリカフ ウ	イラガ類	胸高直径 6cm～10cm : 8～12ml、 10cm～20cm : 12～24ml、 20cm～30cm : 24～36ml、 30cm～40cm : 36～48ml、 40cm～50cm : 48～60ml、 50cm～60cm : 60～72ml、 以降、直径が10cm 増す毎に12ml を 追加する	幼虫発生前 ～発生初期 但し新葉展開後	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内
つばき類	チャドクガ	注入部直径 6cm～10cm : 2ml、 10cm～20cm : 2～12ml、 20cm～30cm : 12～18ml、 30cm～40cm : 18～24ml、 40cm～50cm : 24～30ml、 50cm～60cm : 30～36ml、 以降、直径が10cm 増す毎に6ml を 追加する	幼虫発生前 ～発生初期	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内 (株元灌注は2 回以 内)
プラタナス	プラタナス グンバイ	注入部直径 6cm～10cm : 2ml、 10cm～20cm : 2～12ml、 20cm～30cm : 12～18ml、 30cm～40cm : 18～24ml、 40cm～50cm : 24～30ml、 50cm～60cm : 30～36ml、 以降、直径が10cm 増す毎に6ml を 追加する	新葉展開後	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内
ぶな	ブナハバチ	注入部直径 6cm～10cm : 2ml、 10cm～20cm : 2～12ml、 20cm～30cm : 12～18ml、 30cm～40cm : 18～24ml、 40cm～50cm : 24～30ml、 50cm～60cm : 30～36ml、 以降、直径が10cm 増す毎に6ml を 追加する	新葉展開直前	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内

使用上の注意事項

- (1) 他剤との混用はさけること。
- (2) 樹幹の胸高直径または注入部直径が適用表に記載のない小径木や樹勢の弱った木、空洞や腐朽がある木、極端な老齢木には使用をさけること。
- (3) 適用表の小径木に使用する場合は、専用の注入補助器を挿入し使用、若しくは所定量を2 孔以上に分散させること。
- (4) 対象木が二股以上に分かれている場合は薬剤が問題なく分散する様にそれぞれを1 本の木と見なして所定量を注入すること。
- (5) 薬剤注入孔は、ドリル等を用いて注入部位に斜め下方向に45 度の角度で開けること。
- (6) 薬剤の注入部位は以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
 - 1) 樹木類(つばき類を除く)、さくら、アメリカフウ、プラタナス、ぶなに使用する場合は、主幹部の地上高50～100cm を標準とすること。
 - 2) つばき類に使用する場合は、主幹部の地上高10～30cm を標準とすること。
 - 3) クビアカツヤカミキリに使用する場合は、胸高直径により注入量を決定し、注入部位は主幹部の地際部を標準とすること。
 - 4) クビアカツヤカミキリに使用する場合は、すでに被害が認められている樹(多量のフラスが確認されている樹)は薬剤が分散しにくい場合があるので、クビアカツヤカミキリの食入孔をさけ注入すること。
- (7) 薬剤の注入孔(直径、深さ)、注入量は以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。

- 1) 樹木類（つばき類を除く）、さくら、アメリカフウに使用する場合は、直径5～10mm、深さ6～7cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり4mLを注入する。なお、注入孔直径10mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
 - 2) つばき類のチャドクガ、プラタナスグンバイに使用する場合は、直径5～7mm、深さ6～7cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2mLを注入する。なお、注入孔直径7mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
 - 3) ぶなに使用する場合は、直径5～7mm、深さ3～5cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2mLを注入する。なお、注入孔直径7mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
- (8) 本剤の使用時期は、以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
- 1) 樹木類（つばき、マツを除く）に使用する場合は、落花直後や展葉初期には薬剤が分散しにくいので、落花終了後の新葉が十分に展開した後に注入すること。
 - 2) 樹木類（マツ）に使用する場合は、注入時期により、樹脂流出による注入不良が発生するおそれがあるので、注入孔を開けたら直ちに薬剤を注入すること。なお、樹脂流出の異常なマツや、枝葉が変色したマツには使用しないこと。
 - 3) プラタナスに使用する場合は、落葉期や整枝剪定後の展葉初期には薬剤が分散しにくいので、新葉展開後に注入すること。
 - 4) ぶなに使用する場合は、新葉の展開直前に注入することが望ましい。
 - 5) ケムシ類、イラガ類、チャドクガ、クビアカツヤカミキリを対象として使用する場合は、幼虫発生前に薬剤を注入することが望ましい。
- (9) 注入孔は癒合剤等で穴を塞ぐなど適切な処理を行うこと。特に地際部で使用した場合は降雨による土壌等の進入のおそれがあるため、必ず処理を行うこと。
- (10) 本剤を処理した後に得られる花、葉、果実、種子等は食用に供しないこと。
- (11) 本剤を処理した樹木をきのこ類のほかだ木など栽培用には使用しないこと。
- (12) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- 1) 開花期はミツバチ等に影響を及ぼすおそれがあるので、落花終了後に使用すること。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (13) 本剤は自動車、壁等の塗装面、大理石や御影石等に薬剤が付着すると変色するおそれがあるので、こぼさないように注意すること。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は関係機関、関係技術者等の指導を受けること。
- (15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお関係機関、関係技術者等の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく冷涼で子供の手が届かない場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23330 号

サニーフィールド[®]MC

- 速効性に優れる殺虫剤です。
- 特長： ●溶媒臭がなく、扱いやすいマイクロカプセル化製剤です。
- 樹木類にも使用できる活用幅の広い殺虫剤です。

サニーフィールドは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	500mL×20
その他化管法該当成分	－		
性状	白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3 年
毒性	普通物 [※]	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
芝	スジキリヨトウ シバツトガ	2000 倍	0.3L/m ²	発生 初期	3 回以内	散布	3 回以内
	ケラ		1L/m ²				
樹木類 (つつじ類 を除く)	ケムシ類	2000～4000 倍	100～700 L/10a	発生 初期	6 回以内	散布	6 回以内
つつじ類	ケムシ類	2000～4000 倍	100～700 L/10a	発生 初期	6 回以内	散布	6 回以内
	ツツジゲンバイ	1000 倍					

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前によく振ってから使用すること。
- (3) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。
- (4) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。

- (2) 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。使用後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。
- (3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 24951 号

テラ®フロアブル

- 新規作用機構（殺虫剤分類 30）のプロフラニリドが有効成分です。
 ●残効性に優れています。
 ●耐雨性に優れ、散布後に降雨があっても影響を受けにくい製剤です。
 特長： ●シバの幅広い害虫に登録があります。
 ●樹木類のケムシにも使用できます。
 ●希釈性に優れた製剤です。
 ●いやな臭いがほとんどない製剤です。

テラは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	プロフラニリド・・・20%	包装	125ml×4
その他化管法該当成分	－		
性状	淡黄色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロフラニリドを含む 農薬の総使用回数
芝	スジキリヨトウ シバオサゾウムシ	2000 倍	0.05L/m ²	発生初期	3 回以内	散布	3 回以内
		8000 倍	0.2L/m ²				
		20000 倍	0.5L/m ²				
	シバツトガ タマナヤガ	1000～2000 倍	0.05L/m ²				
		4000～8000 倍	0.2L/m ²				
		10000～20000 倍	0.5L/m ²				
	ケラ コガネムシ類幼虫	4000 倍	0.5L/m ²				
樹木類	ケムシ類	16000 倍	200～700 L/10a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内

農薬の使用上の注意事項

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法-----

(1) 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 2) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

(2) 蜜蜂に係る注意事項

- 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

トレボン[®]乳剤

特長： ●速効的で長い残効性を持っています。
●野菜・果樹・花の多くの作物と害虫に使用できます。

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	500mL×20
その他化管法 該当成分	キシレン（化管法第1種）・・・33% エチルベンゼン（化管法第1種）・・・45%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5 年
毒性	普通物 [*]	危険物	第4 類第2 石油類 非水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

2024 年 4 月 24 日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農薬の 総使用回数
稲	－	コブノメイガ	1000 倍	60～150L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イナゴ類	1000～ 2000 倍					
		カメムシ類 イネミズゾウムシ	2000 倍					
		ウンカ類	300～ 600 倍	25L/10a				
		ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	300 倍					
		カメムシ類	600 倍					
麦類	－	ヒメトビウンカ アブラムシ類	2000 倍	60～150L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
きび	－	アカスジカスミカメ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
あわ	－	アワヨトウ アワノメイガ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
とうもろ こし	－	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
飼料用とうもろこし(子実)	-	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
かんきつ	-	コアオハナムグリ ケシキスイ類	1000 倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
		ミカンハモグリガ	1000～2000 倍					
		チャノキイロアザミウマ	2000 倍					
マンゴー	-	チャノキイロアザミウマ	1000 倍	200～700L/10a	収穫7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ブロッコリー	-	アオムシ	1000～2000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	-	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300L/10a	収穫3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	-	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300L/10a	収穫7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
だいこん	-	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300L/10a	収穫21 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	-	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫21 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
レタス	-	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
すいか	-	アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ	1000 倍	100～300L/10a	収穫3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
きゅうり	-	アブラムシ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
メロン	-	アブラムシ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
にがうり	-	アブラムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類 カメムシ類 ウリノメイガ	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
かぼちゃ	－	コナジラミ類 ウリハムシ	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
なす	－	アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
		コナジラミ類	1000 倍					
トマト	－	コナジラミ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
オクラ	－	アブラムシ類 カメムシ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
さやえんどう	－	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
実えんどう	－	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さやいんげん	－	ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
えだまめ	－	マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
		ハスモンヨトウ	1000～2000 倍					
未成熟さざげ	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ばれいしょ	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんしょ	－	ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも (葉柄)	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
やまのいも	－	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
やまのいも (むかご)	-	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
豆類 (種実、ただし、あずきを除く)	-	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
だいず	-	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
あずき	-	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ ノメイガ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
ほうきぎ	-	ホウキギツツミノガ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 30 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
しょうが	-	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
葉しょうが	-	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
てんさい	-	ヨトウムシ	1000～ 2000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
せんきゅう	-	ウリハムシモドキ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
モロヘイヤ	-	アザミウマ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	1 回	散布	1 回

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
あしたば	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ふき	－	コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
うど	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a	根株養成期 但し、収穫 45 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みつば	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a)	収穫 21 日前 まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ 込み前まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用ぎく	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a	収穫 3 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
じゅんさい	じゅんさい田	マダラミズメイガ ジュンサイハムシ	1000 倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
せり	水田	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫 30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
せり (水耕栽培)	ガラス 室等の 施設	アブラムシ類	1000 倍	100～300L/10a	収穫 30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
みずいも	水田	オキナワイナゴモドキ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
茶	－	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～400L/10a	摘採 21 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
たばこ	－	タバコガ ヨトウムシ	2000 倍	25～180L/10a	収穫 10 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
		アブラムシ類 タバコノミハムシ	1000～ 2000 倍					
おうぎ	－	ウリハムシモドキ	1000 倍	100～300L/10a	収穫 45 日前 まで	4 回以内 (1 年間に 2 回以内)	散布	4 回以内 (1 年間に 2 回以内)
とうき	－	キアゲハ	1000 倍	100～300L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農薬の 総使用回数
採種用と うき	-	キアゲハ	1000 倍	100～300L/10a	幼虫発生期	12 回 以内 (1 年 間に 6 回以 内)	散布	12 回以内 (1 年間に 6 回以 内)
樹木類 (つつじ 類、ポイン セチ ア、ソテ ツを除 く)	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
つつじ類	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍		-			
		ツツジゲンバイ						
ポインセ チア	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a)	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍		-			
		コナジラミ類	1000 倍					
ソテツ	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700/10a	幼虫発生期	6 回 以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		クロマダラソテツシジミ	2000～ 4000 倍					
宿根かす みそう	-	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	-	6 回 以内	散布	6 回以内
		ヨトウムシ	2000 倍					
りんどう	-	ヒラズハナアザミウマ	2000 倍	100～300L/10a	-	6 回 以内	散布	6 回以内
きく	-	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回以内
カーネー ション	-	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回以内
ゆり	-	アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a	-	6 回 以内	散布	6 回以内
トルコギ キョウ	-	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300L/10a	-	6 回 以内	散布	6 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕地)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕地	カメムシ類	2000 倍	60～150L/10a	－	3 回以内	散布	3 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
- (6) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (7) きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用をさけること。
- (8) 採種用とうきを使用する場合は、根部及び葉を収穫せず、種子の収穫に限ること。
- (9) 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (10) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 300～600 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (11) 本剤は自動車等の塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (12) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (5) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
- (6) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので、十分注意すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。

- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----
危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項-----
火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 20403 号

マツガード®

- 特長：
- 有効成分は天然物で、普通物※です。
 - 殺センチュウ活性が高いので、低薬量でも高い効果が期待できます。
 - 効果の持続期間が長く、施用後少なくとも6年は効果が安定しています。
 - ハダニに効果があります。
 - 薬量が少なく吸収性が高いので、短時間で注入でき、施工の効率化がはかれます。
 - 寒冷地でも効果は安定しています。
 - 容器が小さいので、運搬や使用後の容器の廃棄の費用が少なくて済みます。
 - 注入孔径が6mmと小さいため松樹体への負担が少なくて済みます。

マツガードは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・2.0%	包装	60mL×10×8
その他化管法該当成分	—		60mL×10×8（ノズルなし） 180mL×20×2
性状	淡黄色澄明液体	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	第4 類第1 石油類 水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む 農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツノザイセン チュウ	胸高直径(樹幹部) 10～15cm60ml、 15～20cm60～120ml、 20～25cm120～180ml、 25～30cm180～240ml、 30cm 以上は直径 5cm 増すごとに 60ml を増量する。	マツノマダラ カミキリ成虫 発生前まで	1 回	樹幹 注入	1 回
	ハダニ類					

使用上の注意事項

- (1) 庭園松は見かけ上胸高直径に比べ材積量が少ないことから、通常の薬量より少なめに注入すること。
- (2) 本剤は1回の注入で、マツノザイセンチュウによる被害防止効果が6年間、ハダニ類による被害防止効果が4年間、それぞれ認められているが、樹勢、周辺の被害状況などによって変動するので、再注入時期については林業関係機関、林業技術者などの指導を受けることが望ましい。
- (3) 本剤はマツノマダラカミキリ成虫により伝播されるマツノザイセンチュウの侵入、増殖防止を目的とするもので、マツノマダラカミキリには効果がない。
- (4) 樹脂流出に異常のある松や、葉が変色した松には治療効果がないので使用しないこと。
- (5) 五葉松には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (6) 薬剤注入孔は、直径 6.0mm のドリルで地上 0.3～1m 前後の樹幹部に斜め下方に向けて深さ 4～5cm 程度の孔とし、大きな節や横枝の直下はさけること。
- (7) 注入孔を開けたら直ちに容器の先端を差し込み、容器の底に小孔を開けること。加圧注入器を使用する場合は、加圧注入器のノズルをしっかりと注入孔に差し込み、所定の薬液を加圧注入器に移し替えること。薬液が松の形成層に触れないように作業時に十分注意すること。
- (8) 一樹に複数のアンプル又は加圧注入器を使用する場合は、注入孔を樹幹の周囲に分散させて注入すること。

- (9) 薬剤注入が終了した孔は、雨水や雑菌などが侵入しないようコルク栓、木栓、癒合剤等で蓋をすること。
- (10) 注入後の容器は速やかに回収すること。注入終了まで要する時間は樹齢、樹勢によって異なるので注意すること。通常、早いもので1時間以内、遅いものでも3時間程度で完了する。
- (11) 作業中、容器の破損を防ぐため取り扱いは慎重に行うこと。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、林業技術者等の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は手袋を着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるが、この登録に係る使用では問題はない。空容器は必ず回収し、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

危険物第四類第一石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項-----

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23772 号

マツガードクイック®

- 有効成分は天然物で、普通物※です。
- 殺センチュウ活性が高いので、低薬量でも高い効果が期待できます。
- 効果の持続期間が長く、施用後少なくとも 7 年は効果が安定しています。
- 特長： ●ハダニに効果があります。
- 薬量が少なく吸収性が高いので、短時間で注入でき、施工の効率化がはかれます。
- 寒冷地でも効果は安定しています。
- 容器が小さいので、運搬や使用後の容器の廃棄の費用が少なくて済みます。

マツガードクイックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・3.0%	包装	40mL×10×8
その他化管法該当成分	－		120mL×20×2
性状	淡黄色澄明	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	第 4 類第 1 石油類 水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ミルベメクチンを含む 農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツノザイ センチュウ	樹幹部の胸高直径が 10～15cm の場合は 40ml、 15～20cm の場合は 40～80ml、 20～25cm の場合は 80～120ml、 25～30cm の場合は 120～160ml、 30cm 以上は胸高直径が 5cm 増すごとに 40ml を増量する。	マツノマダラ カミキリ成虫 発生前まで	1 回	樹幹注 入	1 回
	ハダニ類					

使用上の注意事項

- (1) 庭園松は見かけ上胸高直径に比べ材積量が少ないことから、通常の薬量より少なめに注入すること。
- (2) 本剤は 1 回の注入で 7 年間、マツノザイセンチュウによる被害防止効果が認められているが、樹勢、周辺の被害状況などによって変動するので、再注入時期については林業関係機関、林業技術者などの指導を受けることが望ましい。
- (3) 本剤はマツノマダラカミキリ成虫により伝播されるマツノザイセンチュウの侵入、増殖防止を目的とするもので、マツノマダラカミキリには効果がない。
- (4) 樹脂流出に異常のある松や、葉が変色した松には治療効果がないので使用しないこと。
- (5) 五葉松には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (6) 薬剤注入孔は、直径 6.0mm のドリルで地上 0.3～1m 前後の樹幹部に斜め下方に向けて深さ 4～5cm 程度の孔とし、大きな節や横枝の直下はさけること。
- (7) 注入孔を開けたら直ちに容器の先端を差し込み、容器の底に小孔を開けること。加圧注入器を使用する場合は、加圧注入器のノズルをしっかりと注入孔に差し込み、所定の薬液を加圧注入器に移し替えること。薬液が松の形成層に触れないように作業時に十分注意すること。
- (8) 一樹に複数のアンプル又は加圧注入器を使用する場合は、注入孔を樹幹の周囲に分散させて注入すること。
- (9) 薬剤注入が終了した孔は、雨水や雑菌などが侵入しないようコルク栓、木栓、癒合剤等で蓋をすること。
- (10) 注入後の容器は速やかに回収すること。注入終了まで要する時間は樹齢、樹勢によって異なるので注意すること。
- (11) 作業中、容器の破損を防ぐため取り扱いには慎重に行うこと。

(12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、林業技術者等の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 使用の際は手袋を着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (5) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や 使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるが、この登録に係る使用方法では問題ない。空容器は必ず回収し、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第一石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項

火気や直射日光をさけ、食品と区別して低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 24593 号

マツガードフラッシュ®

- 特長：
- 新規作用機構（殺虫剤分類 30）のプロフラニリドが有効成分です。
 - 残効性に優れています。
 - 耐雨性に優れ、散布、乾燥後に降雨があっても影響を受けにくい製剤です。
 - 車の塗装や墓石に対して、変色や汚染などの影響がほとんどありません。
 - 希釈性に優れた製剤です。
 - いやな臭いがほとんどない製剤です。

マツガードフラッシュは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	プロフラニリド・・・20%	包装	500ml×2
その他化管法該当成分	－		
性状	淡黄色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	5 年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	プロフラニリドを含む 農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツノマダラカ ミキリ成虫	2000 倍	3L/本 (樹高 10m)	成虫発生直前 又は発生初期	4 回以内	散布	4 回以内

農薬の使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 本剤によるマツノマダラカミキリ成虫防除は後食防止を目的とするものであり、成虫発生直前又は発生初期に時期を失しないように散布すること。
- (4) 散布液量は、樹高 10m のまつ 1 本当たり 3L を標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹冠部を中心に全面に散布すること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

- (1) 農薬使用者に係る注意事項
 - 1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
 - 2) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (2) 蜜蜂に係る注意事項
 - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。
また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22211 号

ガイア®顆粒水和剤

●幅広い病害スペクトラムを有しています。
 特長： ●既存薬剤耐性菌（ベンゾイミダゾール系、ストロビルリン系、EBI 剤耐性菌等）に優れた効果を示します。
 ●予防効果が優れています。

ガイアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド（化管法第1種）・・・50.0%	包装	250g×6
その他化管法該当成分	ドデシル硫酸ナトリウム（化管法1種）・・・2.2%		
性状	類白色細粒	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ペンチオピラ ドを含む農薬 の総使用回数
西洋芝 (パーミューダグラス)	ダラースポット病 カーブラリア葉枯病	2000 倍	0.5L/㎡	発病初期	8 回 以内	散布	8 回以内
西洋芝 (ベントグラス)	雪腐小粒菌核病	400 倍	0.1L/㎡	根雪前	8 回 以内	散布	8 回以内
	ダラースポット病			発病初期			
	ダラースポット病 フェアリーリング病 炭疽病 葉腐病（ブラウンパッチ） デッドスポット病 疑似葉腐病（イエローパッチ）	2000 倍	0.5L/㎡	発病初期			
				秋～春期			
	雪腐小粒菌核病			根雪前			
西洋芝 (ライグラス)	雪腐小粒菌核病	2000 倍	0.5L/㎡	根雪前	8 回 以内	散布	8 回以内
		400 倍	0.1L/㎡				
西洋芝 (ブルーグラス)	雪腐小粒菌核病	2000 倍	0.5L/㎡	根雪前	8 回 以内	散布	8 回以内
		400 倍	0.1L/㎡				
日本芝	疑似葉腐病（春はげ症）	2000 倍	0.25L/㎡	休眠期前	8 回 以内	散布	8 回以内
	葉腐病（ラージパッチ）			発病初期			
	カーブラリア葉枯病		0.25～0.5L/㎡	発病初期			
	フェアリーリング病 さび病 ネクロティックリングスポット病			発病初期			
			0.5L/㎡	秋～春期			
日本芝 (こうらいしば)	ダラースポット病	2000 倍	0.5L/㎡	発病初期	8 回 以内	散布	8 回以内

使用上の注意事項-----

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (3) 散布調製液の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えること。
- (4) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用する。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係がない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22170 号 肥料登録番号：生第 88820 号

サンブレイク®液剤

●芝のピシウム病、赤焼病に有効です。
 特長： ●吸収性の高い亜りん酸、水溶性加里を配合した肥料入り農薬です。
 ●根の生育も促進します。

サンブレイクは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾールカリウム塩・・・22.84% (ヒドロキシイソキサゾール・・・16.5%)	包装	500mL×20
肥料成分	水溶性りん酸・・・18.0% 水溶性加里・・・20.0%		
性状	黄赤色澄明水溶性液体	有効年限	5 年
毒性	普通物*	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数
西洋芝 (ベントグラス)	ピシウム病	50～100 倍	0.1L/㎡	発病初期	4 回以内	散布	6 回以内
		250～500 倍	0.5L/㎡				
	赤焼病	250～500 倍	0.5L/㎡				
	根の生育促進	250～500 倍	0.5L/㎡	生育期 (6 月～8 月)	3 回		
日本芝 (こうらいしば)	ピシウム病	250～500 倍	0.5L/㎡	発病初期	4 回以内	散布	6 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時制御されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
- (3) 根の生育促進に使用する場合は、生育期（6 月～8 月）に 1 ヶ月間隔で、3 回散布すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 有毒ガスが発生するので、石灰硫黄合剤との混合は絶対にしないこと。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- (4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----
この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----
直射日光をさけ、食品と区別し、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 10331 号

タチガレン®液剤

●芝（ベントグラス）の赤焼病、カーネーションの立枯病に効果があります。
特長： ●稲の苗立枯病を的確に防ぎ、根の生育促進、ムレ苗防止など健苗が得られます。
●播種時の処理に加えて、育苗中のかん注により移植時の発根及び活着促進が一層的確に発揮されます。

タチガレンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾール・・・30.0%	包装	500ml×20
性状	黄褐色液体	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾール を含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	500～ 1000 倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L)1 箱当り 500mL	は種時 又は 発芽後	2 回 以内	土壌灌注 又は灌注	3 回以内 (移植前の土壌混和は 1 回以内、 移植前の土壌灌注及び 灌注は合計 2 回以内)
	砂壤土、高温、低温又は高 密度は種苗における水稻用 除草剤起因の生育抑制率軽減	500 倍		移植 5 日 前～移植 前日	1 回	灌注	
	ごま葉枯病			は種時		土壌灌注	
	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	1000 倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L)1 箱当り 1L	は種時 又は 発芽後	2 回 以内	土壌灌注 又は灌注	
	ごま葉枯病			は種時	1 回	土壌灌注	
稲(折衷 苗代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌)	500 倍	1L/㎡	は種直後 又は 発芽後	2 回 以内	土壌灌注 又は灌注	3 回以内 (移植前の土壌混和は 1 回以内、 移植前の土壌灌注及び 灌注は合計 2 回以内)
稲(畑苗 代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌)	1000 倍	3L/㎡	は種直後 又は 発芽後	2 回 以内	土壌灌注 又は灌注	3 回以内 (移植前の土壌混和は 1 回以内、 移植前の土壌灌注及び 灌注は合計 2 回以内)
	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進			は種 直後	1 回	土壌灌注	
レタス	バーティシリウム萎凋病	1000 倍	250mL/株	定植時	1 回	株元灌注	1 回

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾール を含む農薬の総使用回数
キャベツ	ピシウム腐敗病	1000 倍	セ成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (30×60cm・使 用土壌約 3.0～ 4.0L) 当り 0.5L	出芽時 ～育苗期	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
すいか	苗立枯病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種 直後	1 回	苗床灌注	2 回以内 (育苗土壌への混和は 1 回以内、 苗床への灌注は 1 回以内)
きゅうり	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌)	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種 直後	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
メロン	苗立枯病(ピシウム菌)	500 倍	3L/m ²	は種時	1 回	全面土壌 灌注	1 回
ほうれん そう	立枯病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
		1500～ 3000 倍	9L/m ²				
		50～ 100 倍	300mL/m ²			全面散布 後土壌混 和	
オクラ	苗立枯病(ピシウム菌)	500～ 1000 倍	50～200mL/株	は種時～ 発芽初期	2 回 以内	植穴又は 株元灌注	2 回以内
さやいん げん	白絹病	500 倍	1L/m ²	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
さやえん どう	根腐病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種後及 び生育期 但し、は種 後 1～2 か 月後まで	3 回 以内	は種穴又 は株元に 土壌灌注	3 回以内
実えん どう	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及 び生育期 但し、は種 後 1～2 か 月後まで	3 回 以内	は種穴又 は株元に 土壌灌注	3 回以内
未成熟そ らめ	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及 び生育期 但し、収穫 30 日前ま で	3 回 以内	は種穴又 は株元に 土壌灌注	3 回以内
てんさい	苗立枯病	500～ 1000 倍	ペーパーポット 1 冊当り 1L	は種時～ 生育初期 但し、収穫 120 日前ま で	3 回 以内	灌注	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 育苗土壌への混和は 1 回以内、 灌注は 3 回以内)
			3L/m ²				

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾール を含む農薬の総使用回数
みずな	立枯病	500 倍	3L/m ²	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
みぶな	立枯病	1000 倍	3L/m ²	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
みつば	根腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日 前まで た だし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで	1 回	散布	1 回
いちご	苗の発根促進 活着促進	1000 倍	-	挿し芽 採取時	1 回	30 分間 挿し芽浸 漬	2 回以内 (挿し芽採取時の浸漬処 理は 1 回以内、 挿し芽時の土壌灌注は 1 回以内)
			1.5L/育苗培養 土 5L	挿し芽時		土壌灌注	
たばこ	舞病	1000 倍	100mL/株	移植時 及び 大土寄時	2 回 以内	株元灌注	2 回以内
カーネー ション	立枯病	500 倍	3L/m ²	定植時 及び 活着後	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
アイリス	白絹病	1000～ 2000 倍	3L/m ²	定植時 及び 生育期	6 回 以内	土壌灌注	6 回以内
きく	発根促進	1000 倍	5～10L/m ²	挿し芽直 後	1 回	土壌灌注	1 回
林木 (苗木)	立枯病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種覆土 直後	1 回	苗床全面 灌注	1 回
西洋芝 (ベント グラス)	赤焼病	500～ 1000 倍	2L/m ²	発病 初期	4 回 以内	散布	6 回以内
	ピシウム病	250～ 500 倍	0.5L/m ²				

使用上の注意事項

- (1) 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時抑制されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
- (2) 稲に使用する場合は次の事項に注意すること。
 - 1) 育苗中の苗立枯病のまん延防止には発芽期以降に追加灌注すること。
 - 2) ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗（生理的な急性萎凋障害）に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用する。
 - 3) 砂壌土、高温（最高気温 30℃以上）、低温（日平均 15℃以下）又は高密度は種苗における水稻用除草剤起因の生育抑制軽減は、除草剤分類（RAC コード）2 又は 15 の有効成分を含む水稻用除草剤で効果を確認している。
- (3) 本剤をキャベツに使用する場合は、使用液量が多すぎたり濃度が高すぎると薬害（生育抑制）を生じやすいので、所定の使用液量、濃度を必ず守ること。
- (4) 本剤をオクラに使用する場合は、希釈液を乾燥した土壌に灌注すると薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、は種前には十分な灌水を行うこと。

- (5) 本剤をカーネーション立枯病防除に使用する場合は、定植時に所定希釈液を1 m²当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壌灌注すること。さらに活着後、発生状況に応じて適宜灌注処理を行なうこと。
- (6) アイリスの白絹病防除に使用する場合は定植時に所定濃度の希釈液を1 m²当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壌灌注し、その後20～30 日間隔で1～2 回灌注処理すること。
- (7) さやえんどうの根ぐされ病防除に使用する場合は、発生後の灌注は効果がないので、予防的には播種後1 週間以内に所定希釈液を1 m²当り 3L 灌注し、更に1～2 か月後にかけて1～2 回株元灌注処理すること。
- (8) 空容器はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、薬液調製時及び使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して、薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 20695 号

パッチコロン®水和剤

- 特長：
- 芝の葉腐病、ダラースポット病に高い効果を示します。本剤はリゾクトニアの他、担子菌類及び不完全菌類の多くに、抗菌活性を示します。
 - 殺菌作用が強く、植物への浸達性に優れているので、治療効果も発揮します。
 - 根部より吸収されて、すばやく地上部へ移行する性質がありますので、散布時未展開だった上位葉の発病も抑えます。
 - 日本芝はもちろん、寒地型芝にも安心して使用できます。通常の使用量では、薬害の心配はありません。

パッチコロンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	シメコナゾール・・・20.0%	包装	250g×20
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基 C＝10～14 及びその混合物）（化管法 1 種）・・・1.2%		
性状	類白色水和性粉末 45 μm 以下	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
日本芝	葉腐病（ラージパッチ）	4000 倍	0.5L/㎡	発病初期	4 回以内	散布	4 回以内
		2000 倍	0.25～0.5L/㎡				
		800 倍	0.2L/㎡				
	疑似葉腐病（春はげ症）	2000 倍	0.25L/㎡	休眠期前			
		800 倍	0.2L/㎡				
	カーブラリア葉枯病 立枯病（ゾイシアデクライン）	800 倍	0.2L/㎡	発病初期			
西洋芝 （ベントグラス）	葉腐病（ブラウンパッチ） ダラースポット病	2000 倍	0.25L/㎡	発病初期	4 回以内	散布	4 回以内
	炭疽病		0.5L/㎡				
樹木類	うどんこ病	2000 倍	200～700 L/10a	発病前～ 発病初期	5 回以内	散布	5 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 水溶性パック入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意すること。
 - 1) 濡れた手でパックに触らないこと。
 - 2) 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、出来るだけ速やかに使い切ること。
 - 3) 薬液の調製は容器内に所定量の水の 3 分の 1 程度を入れた後、必要量の内袋を開封せずにそのまま容器内にする。その後、よく攪拌しながら容器内に水を定量まで加える。

- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

- (1) 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。
- (2) 水溶性フィルムで包装した製剤は、吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を強く閉じて保管すること。

登録番号 第 23994 号

MIC®エンドタール K 液剤

- 特長：
- 生育中のスズメノカタビラに効果があります。
 - 効果の発現が早く、土壌中ですみやかに分解します。
 - 散布してから 4、5 日後にはオーバーシーディングができます。
 - コアリングの直後にも安心して使用できます。

MIC は三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エンドタールニカリウム塩・・・2.11% (エンドタール・・・1.50%)	包装	2L×6
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	エンドタールを含む 農薬の総使用回数
日本芝 (こうらいしば)	スズメノカタビラ	芝休眠期 (雑草生育期)	8～12 L/10a	200L/10a	3 回以内	散布	6 回以内
西洋芝 (ブルーグラス)	スズメノカタビラ	芝生育期 (雑草生育期)	2～6 L/10a	200L/10a	6 回以内	散布	6 回以内
西洋芝 (ベントグラス)	スズメノカタビラ	春夏期芝生育期 (雑草生育期)	1～2 L/10a	100L/10a	6 回以内	散布	6 回以内

使用上の注意事項

- (1) 本剤は、生育期のスズメノカタビラに有効なので、雑草の発生後に均一に散布すること。
- (2) 本剤使用の際は、展着剤を加用すると効果的である。
- (3) 散布直後の多量の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布すること。
- (4) 張り芝直後又は播種後 6 ヶ月未満の芝地、干害、異常低温、高温障害を受けた芝草への散布は、薬害を生じる恐れがあるので使用しないこと。
- (5) ブルーグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
 - 1) スズメノカタビラを徐々に防除するためには、所定量の範囲内の低薬量で数回散布すると有効である。
 - 2) 本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
 - 3) 芝草に薬害を生じた場合、2 回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
 - 4) 気温 27℃ 以上の高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
 - 5) 本剤は砂質土の芝地では薬害を生じる恐れがあるので、所定量の範囲内の低薬量で使用する。
- (6) ベントグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
 - 1) スズメノカタビラを徐々に防除するため、所定量の範囲内の薬量で数回散布すること。
 - 2) 本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
 - 3) 芝草に薬害を生じた場合、2 回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
- (7) 周辺作物や有用植物に薬液が飛散すると薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないように注意して散布すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 19929 号

クサクリーン®液剤

特長： ●葉や茎から吸収され、雑草体内に移行し、根まで枯れる除草剤です。
●スギナ、セイタカアワダチソウ、イタドリ、ヤブガラシ、ススキ、ササなどの雑草、かん木を根まで枯らします。

クサクリーンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩（化管法第1種）・・・41.0%	包装	5L×4
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	5 年
毒性	普通物*	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

●注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
果樹類 (かんきつ、パイナップルを除く)	－	一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
かんきつ	－	一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3 回 以内	雑草茎 葉散布	5 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
野菜類 (えだまめ、キャベツ、は つかだいこん、だいこ ん、とうがらし類、にん じん、ピーマン、ねぎ、た まねぎ、アスパラガス、 オリーブ(葉)、きゅう り、たらんき、トマト、な す、びわ(葉)、ほうれん そう、レタス、薬用にん じん、豆類(種実、ただ し、らっかせいを除 く)、かんしょを除く)	－	一年生雑草	耕起又は 定植 7 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1 回	雑草茎 葉散布	1 回
豆類 (種実、ただし、 だいず、らっかせいを 除く)	－	一年生雑草	は種 7 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	2 回 以内	雑草茎 葉散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
だいず	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	2回 以内	雑草茎 葉散布	4回以内
			は種後出芽前まで (雑草生育期)		通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a			
			畦間処理: 雑草生 育期但し、収穫 前日まで					
かんしょ	-	一年生雑草	耕起又は 挿苗7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 ^{リットル} /10a 少量散布 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
えだまめ	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
とうがらし類	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
にんじん	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
ピーマン	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
アスパラガス	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
オリーブ (葉)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
きゅうり	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
しゃくやく (薬用)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
たらのき	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
トマト	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
なす	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
びわ(葉)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
ほうれんそう	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
レタス	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
薬用ニンジン	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ^{リットル} /10a 少量散布 25～50 ^{リットル} /10a、 5～15 ^{リットル} /10a	1回	雑草茎 葉散布	10回以内 (1年間に 2回以内)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
キャベツ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	1回
だいこん	-	一年生雑草	耕起又は は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
たまねぎ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3回 以内	雑草茎 葉散布	3回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫30日前まで (雑草生育期)		通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
はつかだいこん	-	一年生雑草	耕起又は は種7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	1回
ねぎ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3回 以内	雑草茎 葉散布	3回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫30日前まで (雑草生育期)		通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			
さとうきび (春植え)	-	一年生雑草	耕起10日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	6回以内
麦類 (小麦を除く)	-	一年生雑草	耕起7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
			は種後出芽前 (雑草生育期)		通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数	
茶	-	一年生雑草	摘採7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内	
小麦	-	多年生 イネ科雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	250～1000 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3回 以内	雑草茎 葉散布	3回以内	
		一年生雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a					
			は種後出芽前 (雑草生育期)						
		多年生雑草	耕起7日前まで (雑草生育期)	500～1000 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回			
	圃場内 の周縁 部	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	3回以 内			
		多年生雑草		500～1000 mL/10a					
水田作物 (水稻を除く)	-	一年生雑草	耕起20～10日前 (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内	
直播水稻	-	一年生雑草	耕起20～10日前 (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	2回以内	
			耕起直後～出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)	250～1000 mL/10a	少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	2回 以内			
			は種30日前 ～出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)						
		多年生雑草	耕起直後～出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)	500mL/10a	50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$				
			は種30日前 ～出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)						
水田作物 (水田刈跡)	水田刈 跡	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 少量散布 25～50 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ 、 5～15 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$	1回	雑草茎 葉散布	1回	
		多年生雑草		500～1000 mL/10a					

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	-	一年生雑草	耕起 20～10 日前 (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5～15 リットル/10a	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
			湛水 30～5 日前 (雑草生育期) (不耕起栽培)		50 リットル/10a			
		多年生雑草	湛水 30～5 日前 (雑草生育期) (不耕起栽培)	500～1000 mL/10a	50 リットル/10a			
水田作物 (水田畦畔)	水田畦 畔	一年生雑草	収穫 14 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 25 リットル/10a	2 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕田	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 リットル/10a 少量散布 25～50 リットル/10a、 5～15 リットル/10a	2 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
牧草	牧野、草 地(更 新・造 成)	一年生雑草	更新・造成の 10 日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50 リットル/10a 少量散布 5～15 リットル/10a	2 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
		一年生 及び 多年生雑草	は種 10 日前 ～は種当日 (耕起整地後： 雑草発生前期)	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 リットル/10a			
樹木類	-	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 リットル/10a 少量散布 25～50 リットル/10a	4 回 以内	雑草茎 葉散布	4 回以内
樹木等	公園、庭 園、堤と う、駐車 場、道路、 運動場、 宅地、の り面、鉄 道等	一年生雑草	雑草生育期	500mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 25 リットル/10a、 5～15 リットル/10a	3 回 以内	植栽地 を除く 樹木等 の周辺 地に雑 草茎葉 散布	3 回以内
		多年生雑草		1000 mL/10a				
		スギナ	生育盛期	2000 mL/10a	少量散布 25～50 リットル/10a、 5～15 リットル/10a			
林木	造林地 (地ごし らえ)	スギ、ササ類、 クズ等の 多年生雑草	生育盛期以降	1000 mL/10a	少量散布 20～30 リットル/10a、 5～15 リットル/10a	3 回 以内	雑草木 茎葉散 布	3 回以内
		落葉 雑かん木						

●注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
林木	林地	クズ	春期又は 秋期	原液又は 2 倍液	1～2mL/株	－	株頭 注入処理	－
		落葉雑かん 木	5～10 月		1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm 以下 2～3 10～20cm 4～8、 20cm 以上 10	－	立木 注入処理	
	林地、放置竹 林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本	－	竹稈 注入処理	
畑作物	林地、放置竹 林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本	－	竹稈 注入処理	－
樹木等	公園、庭園、堤 とう、駐車場、 道路、運動場、 宅地、のり面、 鉄道等	落葉雑かん 木	5～10 月	原液又は 2 倍液	1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm 以下 2～3、 10～20cm 4～8、 20cm 以上 10	－	立木 注入処理	－
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に十分 量を塗布	－	植栽地を除 く樹木等の 周辺地に切 株塗布処理	

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (3) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (4) 展着剤の加用の必要はない。
- (5) 本剤は土壤中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (6) 本剤は雑草生育期（草丈 30cm 以下）に有効なので、時期を失しないように散布すること。
- (7) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (8) 本剤は通常 2～14 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (9) スギナ防除に際しては、スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件下は効果が劣る事があるので、適期にスギナにかかるように注意して散布すること。
- (10) 処理後 6 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (11) 少量散布の場合は、希釈水量に応じた少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面に均一に散布すること。
- (12) 水田への飛散、流入等により水稻に薬害を生じるので、十分注意すること。
- (13) 出芽前に使用する場合は、作物の出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- (14) 注入処理における注意事項
 - 1) クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理すること。
 - 2) 落葉雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理すること。
 - 3) 処理竹から 15m 以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札によりたけのこが採取されないようにすること。
- (15) 雑かん木に塗布処理を行う場合は、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
- (16) 特に生育期畦間散布に使用する場合には作物にかからないよう十分注意して散布すること。
- (17) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないよう十分注意すること。

- (18) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用後十分に水洗いすること。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (20) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
- (21) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用はさけること。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

グラッチェ®顆粒水和剤

高い除草効果があります。

- 一年生、多年生の広葉雑草・カヤツリグサ科雑草まで幅広いスペクトラムをもっています。
- チドメグサ・ヒメクグ・ハマスゲ等の難防除雑草に対して高い効果があります。
- 雑草発生前から発生初期まで幅広い処理適期をもっています。

特長： 芝に対して高い安全性があります。

- 西洋芝、日本芝を問わず使用可能です。
- フェアウェイ、ラフ、グリーン、ティー等の全ての場面に対応できます。
- 張り付け直後の芝にも高い安全性があります。
- 散布液調製時の粉立ちや、散布後の芝生の汚れが少ない使いやすい製剤です。

グラッチェはバイエルグループの登録商標です。

有効成分	エトキシスルフロン・・・60.0%	包装	100g×6
性状	褐色水和性細粒	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	エトキシスルフロンを含む農薬の総使用回数
日本芝	一年生広葉雑草	雑草発生前 (芝生育期)	15～30 g/10a	200～300 L/10a	3 回以内	散布	3 回以内
		雑草生育初期 (3 葉期まで) (芝生育期)	30～60 g/10a				
	多年生広葉雑草 ヒメクグ ハマスゲ	雑草生育初期 (3 葉期まで) (芝生育期)	30～60 g/10a				
			45～75 g/10a				
西洋芝 (ベントグラス)	一年生及び多年 生広葉雑草	雑草生育初期 (3 葉期まで) (芝生育期)	30～60 g/10a	200～300 L/10a	3 回以内	散布	3 回以内
	ヒメクグ ハマスゲ		45～75 g/10a				
西洋芝 (ブルーグラス)	一年生及び多年 生広葉雑草	雑草生育初期 (3 葉期まで) (芝生育期)	30～60 g/10a	200～300 L/10a	3 回以内	散布	3 回以内
	ヒメクグ ハマスゲ		45～75 g/10a				

使用上の注意事項-----

- (1) 本剤は、雑草の発生前から生育初期に有効なので時期を失しないように散布すること。
- (2) 本剤はイネ科雑草には効果が劣るので、イネ科雑草の優先する圃場ではこれに有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
- (3) 周辺の作物にかかると薬害が生じるので散布の際は芝生の中にある草花や花木、畑作物にかからないようその付近での散布はさけること。
- (4) 本剤の散布に用いた機具類は、使用後できるだけ速く水で十分洗っておき、他の用途に使用する場合薬害の原因にならぬよう注意すること。
- (5) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6) 容器、空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗いし、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、散布液を浴びたり吸い込んだりしないように注意すること。
- (4) 公園等で使用する場合は散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係がない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23437 号

クロスリード®液剤

- スギナ、ツユクサなど、ほとんどの雑草を枯らしめます。
- 特長： ●早く枯らし、長く雑草の発生を抑えます。
- 有効成分のグルホシネートPは土壌中で速やかに分解されます。

クロスリードは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グルホシネートPナトリウム塩…11.5%	包装	10L×1
その他化管法該当成分	—		
性状	青色澄明水溶性液体	有効年限	4 年
毒性	普通物 [※]	危険物	指定可燃物 可燃性液体類

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期（草丈 30cm 以下）	500～1000 ml/10a	100～200 L/10a	3 回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3 回以内
		多年生雑草	雑草生育期（草丈 30cm 以下）	1000～2000 ml/10a	100～200 L/10a			

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布直後の降雨は、効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布すること。
- (3) 本剤は雑草の生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、草丈 30cm 程度を目安に時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布すること。
- (4) 植物に薬液が付着すると薬害を生じるので散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように散布すること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) 散布液を調製した容器及び散布器具は使用後十分に洗っておくこと。
- (7) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 原液は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (5) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (6) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

水産動植物（魚類）に影響を及ぼす恐れがあるので、養魚田周辺での使用には注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 9898 号

フレノック®液剤 30

- ササ、ススキ、ヨシ（アシ）などにすぐれた効果があります。
- 特長： ●薬量によっては長い伸長抑制効果もあります。
- 目や皮膚を刺激せず、いやな臭い也没有せん。

フレノックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)登録商標です。

有効成分	テトラピオン（化管法第1種）・・・30.0%	包装	10L×1
性状	紫色透明液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
林木	林地	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期	10 倍	50ml/株径 30～50cm (但し、 30L/10a まで)	1 回	本剤を水で 10 倍に希 釈し株の中 央部に散布 する。(株処 理)	1 回
開墾後に栽培 する樹木類	開墾地	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期					2 回以内
すぎ(地ごしらえ、下刈り)	—	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期					
ひのき(地ごしらえ、下刈り)	—	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期					

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤 とう、駐車場、 道路、運動場、 宅地、のり面、 鉄道等	一年生イ ネ科雑草	雑草発生前～生育期	1.5～3 L/10a	50～200 L/10a	2 回以内	植栽地を除 く樹木等の 周辺地に雑 草茎葉散布 又は全面土 壌散布	2 回以内
		ハマスゲ	生育期	1.5～3 L/10a				
		ススキ ササ	秋冬期～生育初期	1.5～3 L/10a				
		ヨシ	出芽前～生育期	3～5 L/10a				

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) すぎ、ひのき以外の造林地では使用しないこと。
- (3) すぎの造林地では薬にかからないように散布すること。ススキの株数が多い場合 (3000 株/ha 以上) でも処理薬量は原液で 30L/ha を越えないようにし、また、すぎの周囲半径 60cm 以内にススキ株がいくつあっても原液で 3mL 以上は散布しないこと。

- (4) 薬剤量は直径 30～50cm のススキの株を基準とした場合 10 倍液を 50mL/株が適量であるが、株の大きさにより適宜増減すること。
- (5) あかまつには強く作用するので付近にある場合にはかからないように十分注意して散布すること。
- (6) ひのきの造林地では薬害のおそれが多いが、なるべく葉にかからないようにし、すぎの場合に準じて処理すること。
- (7) ススキ、ササに対する処理最適時期は出芽前～出芽初期であるので、この時期をはずさないように処理すること。この時期より処理が遅れた場合、その年には外観上効果が認められないこともあるが、翌年の出芽は抑制する。効果がすぐ見られないからといって繰り返し追加散布はしないこと。
- (8) 一年生イネ科雑草に使用する場合、処理適期は雑草の発生前から雑草生育期（草丈 30cm 以下）であり、効果完成までに日数を要するので、誤って再散布しないこと。また、広葉雑草が優先する場所では広葉雑草に有効な剤と組み合わせで使用すること。
- (9) 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることを十分に注意して散布すること。
- (10) 場合により造林木の下葉に黄褐変が認められることがあるが、上長成長への影響は認められない。
- (11) 本剤を林地の地ごしらえ、または開墾地に使用し、その年に栽植する場合は、散布後 3 ヶ月以内には植付け、は種などを行わないようにすること。
- (12) 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
- (13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (14) 本剤の散布に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すると共に、初めて使用するときは、病虫害防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 公園、駐車場等に使用する場合は、本剤を希釈後、よくかきまぜてから散布すること。雑草生育期に散布する場合、希釈水量は対象雑草の種類、草丈、繁茂密度に応じて加減すること。
- (16) 水源池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
- (17) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空瓶等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 10783 号

フレノック®粒剤 10

●ササ、ススキ、チガヤにすぐれた効果があります。
 特長： ●薬量によっては長い伸長抑制効果もあります。
 ●眼や皮膚を刺激せず、いやな臭い也没有せん。

フレノックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)登録商標です。

有効成分	テトラピオン（化管法第1種）・・・10.0%	包装	2.5kg×6
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
開墾後に栽培する樹木類	開墾地	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株 (平均株径30cm基準)当り 15g(但し、10kg/10aまで)	1回	スポット処理散布	1回
				3～5kg/10a		全面均一散布	
		ササ		3～5kg/10a		全面均一散布	
すぎ (地ごしらえ、下刈り)	—	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株 (平均株径30cm基準)当り 15g(但し、10kg/10aまで)	1回	スポット処理散布	2回以内
				3～5kg/10a		全面均一散布	
		ササ		3～5kg/10a		全面均一散布	
ひのき (地ごしらえ、下刈り)	—	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株 (平均株径30cm基準)当り 15g(但し、10kg/10aまで)	1回	スポット処理散布	2回以内
				3～5kg/10a		全面均一散布	
		ササ		3～5kg/10a		全面均一散布	
とどまつ (下刈り)	—	ササ	秋冬期(但し 土壌凍結前)	2～4kg/10a	1回	全面均一散布	1回
からまつ (下刈り)	—	ススキ ササ	秋冬期(但し 土壌凍結前)	3～4kg/10a	1回	全面均一散布	1回
ぶな (地ごしらえ、下刈り)	—	ササ	秋冬期(但し 土壌凍結前)	2～3kg/10a	1回	全面均一散布	1回

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	チガヤ	生育期	10～20kg/10a	1回	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面均一散布	2回以内
		ススキ ササ	秋冬期～出芽初期	5～10kg/10a			
		一年生イネ科雑草	雑草発生前～生育期	2～10kg/10a	2回以内		

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) スポット処理の場合、ススキの株数が多い場合（3,000株/ha以上）でも、処理薬量は100kg/haを越えないようにし、また造林木の周囲半径60cm以内にススキ株がいくつあっても、10g以上は散布しないこと。
- (3) 開こん地、杉、ひのきに使用する場合、処理適期は秋冬期から雑草の出芽初期であり、伸長期になると効果が劣るが、翌年の出芽は抑制するので、効果が劣るからといって、くり返しや追加の散布はしないこと。
- (4) 一年生イネ科雑草に使用する場合、処理適期は雑草の発生前から雑草生育期（草丈20cm以下）であり、効果完成までに日数を要するので、誤って再散布しないこと。また、広葉雑草が優先する場所では広葉雑草に有効な剤と組み合わせで使用すること。
- (5) 本剤は水によくとけ、降雨時、積雪時、または融雪時には流亡による効果低減のおそれがあるので、使用をさけること。
- (6) 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
- (7) 場合により、造林木の下葉に黄褐変が認められることがあっても、上長成長には影響が見られない。
- (8) 林地の地ごしらえ、または開墾地に使用した場合、散布後3ヶ月以内は樹木の植付け、は種などをさけること。
- (9) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) とどまつ、からまつ、ぶなに使用する場合、春夏期には薬害を生じやすいので、造林木の根の吸収が低下する落葉期から土壌が凍結または降雪期までに散布すること。砂質土で薬剤の流亡が生じやすい地域では、所定量の範囲内で多目の薬量で使用する。
- (11) からまつに使用する場合、透水性不良の土壌では少なめ（3kg）に使用すること。
- (12) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (13) 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当をうけること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23984 号

フレピオン®L 液剤

- 高い殺草効果と長い抑草期間が期待できます。
- 特長： ●多年生雑草の再生を強く抑制します。
- 多年生雑草のススキ、チガヤ、ササ、クズ等に効果があります。

フレピオンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートナトリウム塩（化管法第1種）・・・11.3% テトラピオン（化管法第1種）・・・16.7%	包装	10L×1
その他化管法該当成分	2-アミノエタノール（化管法1種）・・・1.7%		
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用 雑草名	使用 時期	薬量	希釈 水量	本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数	テトラピオン を含む農薬の 総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤 とう、駐車場、 道路、運動場、 宅地、のり面、 鉄道等	多年生雑草 （スギナを 除く）	雑草生 育期	1.5～3.5 L/10a	100 L/10a	2 回 以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に雑草 茎葉散布	3 回以内	2 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきること。
- (2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、雑草の草丈が 50～100cm の時に散布し、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (5) 本剤は通常 2～14 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (6) 処理後 6 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (7) 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにすること。
- (9) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意して使用すること。
- (10) 散布器具、容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (11) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない銅鉄製（ステンレスを除く）の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (12) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
- (13) 本剤の散布に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すると共に、初めて使用するときは、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 10972 号

グラミン[®]S

特長： ●泡を抑えた展着剤です。
●作物表面に均一に行き渡らせる作用を強化しています。

グラミンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル(化管法第1種)・・・15.0% ポリナフチルメタンスルホン酸ナトリウム・・・4.0% ポリオキシエチレン脂肪酸エステル・・・5.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	ブチルセロソルブ(化管法第1種)・・・19%		
性状	淡黄褐色透明液体	有効年限	5 年
毒性	普通物 [※]	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用作物と使用方法】

適用農薬名	作物名	使用量	使用方法
有機リン剤、カーバメート剤などの殺虫剤、殺ダニ剤、銅剤、硫黄剤、抗生物質剤などの殺菌剤	稲、麦、キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mL/散布液 10 ^{リットル}	添加
	はくさい、きゅうり、ばれいしょ、果樹等の薬液のつきやすい作物	0.5～1mL/散布液 10 ^{リットル}	

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 所定量の本剤を直接散布液に加え、十分かきまぜてから散布すること。あるいは本剤を加えた水で散布液を調製してもさしつかえない。
- (3) 泡の消えにくい薬剤（ポリオキシ剤など）には多目に加えること。
- (4) 本剤は自動車、壁などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

誤飲などのないよう注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

ウッドスター®薬剤注入セット

特長： ● ウッドスター®の薬剤ボトルに取り付けて薬剤の樹幹注入ができます

使用方法

(1) 薬剤注入器の準備

- 1) 肩掛け用ストラップの薬剤ボトルへの取付け
肩掛け用ストラップの中央にあるゴムリングを広げて薬剤ボトルに装着します。
※ゴムリングが確実に薬剤ボトルに取り付けられていることを確認してください。
- 2) 薬液チューブ+吸入管の組立てと薬剤ボトルへの取り付け
i) 吸入管のソケットを薬液チューブに挿入します。
ii) ボトルキャップを外し、吸入管を挿入します。
iii) 吸入管のキャップ部分を締め、取り付け完了です。
※吸入管のキャップ(黒色)がきちんと締まっていることを確認してください。
※外したボトルキャップは、作業終了まで残しておいてください。薬液が残った場合に必要になります。
- 3) 薬剤注入器への薬液チューブ・注入ノズルの取り付け
i) 注入器後部のソケットを薬液チューブに差し込みます。
ii) 注入器先端に注入ノズルを回しながら取り付けます。
iii) 注入ノズルの先端が下を向くように取り付けてください。
※薬液チューブ・注入ノズルが確実に取り付けられていることを確認してください。

(2) 薬剤注入前の準備

- 1) 薬剤注入器への薬液の吸い上げ
i) 吸入管キャップを外し、注入ノズルが入られるよう僅かに上げ、吸入管の先端が薬液に浸っていて薬液が吸入できる状態であるか確認の上、作業を開始してください。
ii) 注入器をやや上向きにして注入先を薬剤ボトルに入れ、注入グリップを 5～10 回程度ゆっくり握り、薬液をシリンダーとチューブ内へ吸い上げてください。
※注入器の初期設定注入量は 5.0(ml) に設定されていますが、そのまま吸い上げて構いません。
※薬液吸い上げは、注入ノズルから薬液が出ない程度でやめてください。
※エア抜き作業はこの後の手順で行いますので、シリンダー、チューブ内にエアが入っていても構いません。
- 2) 薬剤注入量の調整
注入量調整ウィンドに表示される数字を、注入量調整ダイヤルを回して調製して下さい。ダイヤルの目盛りは 0.5 刻みで表示できます。
- 3) 薬剤注入器内等のエア抜き
i) 吸入管キャップを外し、注入ノズルが入られるよう僅かに上げ、吸入管の先端が薬液に浸っていて薬液が吸入できる状態であるか確認の上、作業を開始してください。
ii) 注入器をやや上向きにして注入先を薬剤ボトルに入れ、注入グリップを 3～4 回程度連続して握り、シリンダーとチューブ内のエアを抜いてから注入作業を開始してください。
※4ml 設定の場合、直径 2～5mm 程度のエアが 1 つ程度残る場合でも、注入液量に大きく影響するものではありません。

(3) 薬剤注入の処理手順

- 1) 処理樹への薬剤処理準備
i) 注入孔の作成
・ドリルを使って、注入孔をあけます。
・孔径は、さくら 10mm、やぶつばき、プラタナス 7mm とし、角度 45° 深さ 6～7cm 程度の注入孔をあけます。
ii) 注入孔へのマーカー設置
・注入孔を見失わない様、注入孔にマーカーを差し込みます。
- 2) 薬剤注入処理
i) 注入孔マーカーを抜き、ノズルを注入孔底付近まで挿入し、注入グリップをゆっくり握り薬液を注入してください。
ii) 注入後、注入グリップを握ったままノズルを引き抜き、薬剤注入器を水平にしてからグリップを緩めてください。
※注入グリップを急に強く握ると、注入孔からの薬液飛散の恐れがありますのでご注意ください。
※薬剤注入作業時、薬剤ボトルは水平に保ちながら作業を実施してください。薬剤ボトルが水平に保たれていないと、注入器へのエアの混入等、注入作業に支障を来す場合があります。

(4) 薬剤処理後の作業手順

1) 薬剤が残っている場合（吸入管が薬液に浸っている場合）

- i) 吸入管を薬剤ボトルから外し、薬液面上まで引き上げ、注入ノズルを薬剤ボトルへ差し込んでください。
- ii) 注入グリップをゆっくり握り、シリンダーおよびチューブ内の薬液を抜き取り、薬剤ボトルに戻してください。
- iii) 薬剤ボトルをボトルキャップで密栓し、冷暗所に保管してください。
- iv) 有効期限内であれば次の作業時に使用できます。

※ゴミ等を入れないよう注意して作業してください。注入器の詰まりの原因になります。

2) 薬剤を使い切った場合

i) 継続して注入作業を行う場合

- ・(4)、1) i)～ii) の操作で、薬剤ボトルにシリンダー及びチューブ内の薬液を戻してください。
- ・使用を終えた薬剤ボトル内の薬液を新しい薬剤ボトルに移してください。
- ・その後、前記と同じように注入の準備します。
- ・新しい薬剤ボトルに吸入管を差し込む際には、薬剤ボトルから薬液が溢れださないことを確認しながら作業してください。

ii) 注入作業が終わった場合

- ・構造上、薬剤ボトル内に薬液が余ります。上記と同様に、シリンダー及びチューブ内の薬液を薬剤ボトルに戻してください。
 - ・残液は、有効期限内であれば次の作業時に使用できます。薬剤ボトルをボトルキャップで密栓し、冷暗所に保管し、次処理作業時に使用してください。
 - ・不要な場合、環境に影響がないよう適正に処分してください。
- ※使用後は薬剤注入器内に薬液が残らないようにして、保管してください。

使用上の注意

- (1) 本薬剤注入器は、ウッドスター®専用です。また樹幹注入以外の用途へのご使用は避けてください。
- (2) 注入作業開始前の注入器内等のエアをできる限り抜いてください。不十分な場合、薬剤注入量が正しい注入量にならない場合がありますので、注意してください。
4ml 設定の場合、直径2～5mm程度のエアが1つ程度残る場合でも、注入液量へ大きく影響するものではありません。
- (3) 薬剤注入器および吸入管への薬液ホースの装着は、確実に実施し、薬液漏れがないことを確認した上で、注入作業を開始してください。
- (4) 薬剤注入作業時、薬剤は水平に保ちながら作業を実施してください。薬剤が水平に保たれていないと、注入器へのエア混入等、注入作業に支障を来す場合があります。
- (5) 薬剤注入時、注入グリップは急に握らず、ゆっくり握り注入してください。注入グリップを急に強く握ると、注入孔からの薬液飛散の恐れがあります。
- (6) 注入作業終了後は注入器内の薬剤を確実に抜いてください。不十分な場合、残存薬剤による注入器の劣化等が想定されますので注意してください。注入器内の水洗いはしないでください。シリンダー内の濁り（白化）が目立つようになった時が取り替え時期ですので、新しい注入器に取り替えてください。
- (7) 構造上、薬剤ボトル内に少量の薬剤が余りますので、環境に影響がないよう適正に処分するか、ボトルキャップで密封して保存すれば次回処理作業時に使用することも可能です。（有効期限内にご使用にください。）

生防協登録品

ハチダウン®

- スズメバチ駆除用エアゾールです。
- 特長： ●効果が高く、スズメバチの巣の駆除に最適です。
- ハチローFH®（スズメバチ駆除用スプレー竿）に接続して使用します。

ハチダウンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	d-T80-レスメトリン d-T80-フタルスリン	包装	730mL×6 730mL×12
その他化管法該当成分	—		
性状	無色透明液体	有効年限	—
毒性	普通物※	危険物	危険物第4類第3石油類 非水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

対象害虫・使用方法

対象害虫

スズメバチ、アシナガバチ

使用方法

- (1) 本剤にハチローFH®（専用スプレー竿）の作動ボタンを接続して、直接ハチの巣に噴霧すること。
- (2) 本剤の缶の総重量（キャップ込み）が300g以下になった時は、駆除中に薬液がなくなるおそれがありますので、予備を1缶用意すること。
- (3) ハチの巣を除去する時は、噴霧後ハチが死んでいる事を確認してから行なうこと。
- (4) 本剤を使用する時は、防護服を着用すること。

使用上の注意

- (1) 本剤は巣にいるスズメバチやアシナガバチの駆除以外の目的には絶対に使用しないこと。
- (2) 自動車、器具、家具、電気製品、楽器、美術品、壁などの塗装面、プラスチック、金属などを汚しますので十分注意し、直接噴霧液がかからないようにすること。
- (3) 人やペット（犬、猫、小鳥など）には絶対に噴霧しないこと。
- (4) 室内では使用しないこと。
- (5) 飲食物、食器、玩具、寝具、衣類、飼料にかからないようにすること。
- (6) 水槽や池などには散布液がかからないように十分注意すること。（魚毒）
- (7) 庭木、花類、野菜などには使用しないこと。
- (8) ミツバチに薬液がかかると死にますので、ミツバチ及び巣箱にはかからないようにすること。

安全使用上の注意

- (1) 噴射した霧を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔など石けんでよく洗い、うがいをする。
- (2) 眼に入った場合は、直ちに水でよく洗い流すこと。
- (3) 使用中に異常を感じた時は直ちに医師の手当を受けること。
- (4) 病人、特異体質の人、妊娠、乳児などのいる場所では使用しないこと。
- (5) 自動車のフロント、開けたままの自動車の荷台やトランク等の直射日光に当たるところ、ガスレンジ、ストーブなどの暖房器具の近くには絶対に置かないこと。（破裂注意）
- (6) 使用後の空缶は、必ず危険のない、火気のない戸外で、噴射音が聞こえなくなるまでボタンを押し、ガスを抜いてから不燃ごみとして捨てること。
- (7) 散布液のかかったハチ（成虫、蛹、幼虫）は食べないこと。

貯蔵上の注意事項

飲食物、食器類と区別し、火気や直射日光をさけて子供の手の届かない乾燥した冷暗所に保管すること。

生防協登録品

ハチローFH®

特長： ● ハチダウン®(専用エアゾール)に接続して巣の中のハチを一気に撃退できます

重 量	約 180g	材 質	本体：グラスファイバー チューブ：LDPE ボタン：HDPE トップカバー：PC エンドキャップ：HDPE
収納時	約 110cm		
伸張時	約 260cm(3 本振り出し)		
規格・包装	2.6m×1	竿 色	ホワイト

使用方法

- (1) マジックテープをはずし、チューブをのばす。
- (2) 竿の先のトップカバーをとる。
- (3) 竿をのばす。
- (4) エアゾール缶のボタンをはずす。
- (5) チューブの先端のボタンを確実にはめる。
- (6) ボタンを押して、霧の出る方向を見てから散布にとりかかる。
- (7) 噴霧終了後は2～3 秒してから竿のボタンをはずす。
- (8) エアゾール缶の元のボタンを軽くはめる。

使用上の注意

- (1) 必ず専用エアゾール（ハチダウン®）を使用すること。
- (2) 噴霧の方向を確かめるなど使用直前に試し噴霧をするときは直接植物や動物、その他有用物に向かって噴霧しないこと。

安全使用上の注意

- (1) 蜂の巣駆除以外の目的には使用しないこと。
- (2) 絶対に人に向けて噴霧しないこと。
- (3) 竿が電線に触れないよう気をつけること。
- (4) 噴霧の前にはエアゾール缶の表示を必ず、よく読むこと。
- (5) 終了後にエアゾール缶の元のボタンをはめる場合は、のせるように軽くはめること。押すように強くはめると薬液が噴射するので注意すること。また、ボタンをはめるときは噴口を人や動物に向けないこと。
- (6) 終了後はエアゾール缶のボタンや竿のキャップが紛失していないか確認すること。また、薬液が竿のチューブに残ることもあるので、竿はケースに入れて、小児の手の届かない所に保管すること。